新和歌類句集

第三句
五代集
笑

特別
イ4
3163
22(4)

貴
14
3163
22(4)

新和歌類句集

か

新後拾 夜ゆゑ　菅原昌家
雜秋 ゆくらいはしたちくやうきたりしあるとに中る月げ

凡 いはしたちとい　ろうたたりて物はしゆの返りりしたれるゆ　源敦雄
雜下

新千 あはれ川　ゆくはれ中とけてゆのうみてし月隠さ　兼盛
巡巾

新千 ゆはれ川　ゆくはれうれ中とけてゆのうみてし月隠さ　花園院御製
秋上

新後古 人ゑと　ゆくりてゆて中にたちのよれしゆ牛ゆのすん　ちと人ゆ
巡五

新後古 あるふゆと　ゆくりはすゆ心遠ゆをこれ世ゆ氏製ゆ　左兵衛督直義
巡巾

新千 雲はれ人い　ゆくりにきりとうくゆとみゆまゆ長ゆれ月れ　皇太后宮大夫俊成
哀傷

凡 月ゆとゆこゆゆくりゆやゆとゆ内ゆはゆ年れゆれ行ゆ　卜部兼忠
冬

新拾 ゆとれ草の　ゆる十ゆてゆれ人れゆゆゆゆゆ乃ゆ冬ゆゆ月ゆ三ゆ　前参議乃秀
巡巾

新千 神の色れ　ゆるとゆゆけは振衣ゆゆゆ　左兵衛督直義
雜下

新千夏　ぬらいせに　けるときてしあすの川ゆうつりを　月ゆえに　前信公朝

新拾忠五　いはそらに　つゆの契はそ　ふりつゆ　しんしはさい　沛製

新後拾忠五　ふるるを　はらはられぬ　ゆくへ　ゆうひやあらん　太上天皇

新千忠五　ふる里か　つゆの契はまの松神に　京こそ恨　ありとは　大江行元

新続古忠巾　ゆきかと　はつるとは　ゆえ　こゝろ　ゆきにうりてゆく　後伏見院弁・内侍

新続古忠巾　わすれ川　はるのさくらやて　風とゆく　景中納言為秀

風忠巾　ゆきやさい　ふるゆきに　こゝろ　みてゆくにも　春　俊子内　歌題

新拾夏　関をはれす　はるのしてゆくの川　ゆきてゆく　月ゆえ　一条内大臣

風秋中　常磐山　ふるこゝを　ふるに　月ゆ　ゆく　出れ　前大納言為氏

風忠巾　ひさしく　はるの　ゆき　ゆく　人ゆ　ゆ　人せ　したゆ　法眼堯恵

新拾忠五　いはそのは　ゆくしてゆく　せゆ　契　ゆ　身　ゆ　ゆん　前中納言公脩

新後拾忠二　いさや又　はるとせいはゆ　ゆ人ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　和泉式部

新千夏　ゆ月ゆ　ゆ春ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　右大臣

新拾夏　みゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　沛製

新後拾夏　わゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　土御門院小宰相

新後古秋上　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　皇太后宮大夫俊成

新千忠巾　ゆ川　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　赤人

風忠巾　わ川　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　太上天皇

新拾夏　ふれ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　枝大納言義詮

新後古忠三　人ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　為家卿

新後古賀　君やゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　為氏

新千冬　わすれ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　為氏

新千祝　寄とて　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　民部卿為茂

新後拾秋上　ぬらいせに　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　俊成卿女

新千 雜下 風 雜中 新千 出五 新拾 雜 風 秋下 新千 夏 新後拾 秋上 新千 慶賀 風 秋上 新千 雜中 新拾 冬 新後拾 夏

由てゝみ　うゝゐ新しわかゝといふこゝろをよ　源光行
神の人に　うゝゐ月入くれわひ昔氣とこゝ　如願法師
おけい　うゝゐ中れわをひけはいかゝあつれをの人　源頼康
雜代り　うゝゐ杉を寄りてみゆきをしきこゝろ海　法印延全
やうに　うゝゐとこゝ所ふかく行こゝろ秋を分ける　參議雅經
つゝをゝき　うゝゐ山といとゝこゝろ秋ゆこゝろ紅やまき里人　權僧正 保守
物をとて　うゝゐこゝにも春いたりけるとや思ふ人　よゝ人こゝも
うゝひまの　うゝゐこゝや君代ますこゝろ山とこゝ祝人　前大納言 為兼
をとして　うゝゐ物いせ氣かとこゝ契をりきり　源義詮朝臣
月けし　うゝゐをゝかいこゝろ老とをの人　東宮侍四
楸ゝの　うゝゐ鳥をゝ文はこゝろゆきは月をこゝ　山内左京
はをゝ　うゝゐ人人こゝをこゝろ　侍後為親

新後古 雜 新後古 哀 新後拾 恋三 新千 秋上 新後古 秋 新後拾 恋上 新後古 恋上 風 夏 新千 秋上 新後古 雜下 新拾 雜中 新拾 恋下

雜代をを　うゝゐをすゝ石清水をを也ゝ　よゝ人こゝを　前大僧正 為兼
雜の人に　うゝゐすゝ月こゝれ雜をき氣こゝ　前僧正 文保
と夜かく　うゝゐこゝをゝ花をゝいこゝ　法印長覺
こゝ　うゝゐをゝけまをゝ四方をゝ加のゝ月　贈後三位 為子
もゝ　はゝの浪をゝこゝれいも侍ゝ山ゝ　前大僧正 道玄
時見ゝ　はゝ也ゝ花をゝ人人ゝ所ゝ乃ゝ倉　前参議 雅孝
こゝ　うゝゐ三ゝ山ゝ浪の山とはゝく流ゝこゝ月け　順徳院 御製
見ゝき　うゝゐ波乃三ゝ中ゝ秋とをゝをゝこゝ　柱中納言 公雄
八ゝ見川　うゝゐ乃波ゝ三ゝ中ゝ秋ゝ心ゝ雄ゝ月氣　後二位為家
こゝ雲　うゝゐ波ゝひとゝこゝ乃ゝ雲ゝ世ゝ三ゝ山ゝ　惟宗上人
わゝ　はゝ世ゝ氣ゝ山ゝ柱の氣ゝ谷ゝ山ゝ　中園入道 前大政大臣
ゆく　うゝ世乃水ゝけゝ氣ゝ　左兵衛督 基氏

風 非上 新千 出二

ふるあめに
あらしをうやみ
くれなゐ
の
はつかに
みるまに
くれぬ

俊二位 兼行女

風 秋下 新千 雜

はれぬれば
ものうきこころ
なりにけり
ゆくへ
なしとは
ながめ
ながら

東宮国量

風 雜上 新拾 恋上

ながめ
ながら
ゆくへ
なしとは
ながめ
ながら
ものを
おもふ

進子内 親王

風 雜下 新千 秋下

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

宗人王

風 雜下 新千 哀傷

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

権大納言 為忠

風 雜上 新拾 出二

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

権中納言 為忠

風 雜上 新千 哀傷

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

西行法師

風 雜上 新千 哀傷

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

伊周清

風 雜上 新千 哀傷

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

法印宗運

風 雜上 新千 哀傷

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

式乃部 親王

風 雜上 新千 哀傷

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

中務 心宗 親王

風 雜上 新千 哀傷

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

法印隆俊

風 雜上 新千 哀傷

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

中務

風 雜上 新千 哀傷

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

藤原隆信 朝臣

風 雜下 新拾 恋下

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

源仲製

風 雜下 新後拾 出三

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

法印慈円

風 雜中 新後拾 出三

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

大僧正 基氏

風 雜上 新後拾 恋上

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

一条法印 親王 法守

風 雜 新千 雜別

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

禪心法印

風 雜上 新千 雜上

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

法眼神喜

風 雜上 新後拾 出三

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

長尋心元良 親王

風 雜上 新後拾 出二

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

後西園寺 前太政大臣

風 雜上 新後拾 出二

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

沼義法印

風 雜上 新後拾 出二

ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ
ながめ
ながら
ものを
おもふ

源雅宣 朝臣

風
表下
新千
冬
新千
哀傷
新千
雜上
新拾
雜下訓
風
旅
新拾
表下
新拾
恋二
新後古
恋三
新後古
恋二
新拾
雜下
新千
恋二

うめの花を　うめの花を　表にたれまうめて　仏のりさり　崇徳院 清輔
春下　春下　春下　春下
春下　春下　春下　春下
春下　春下　春下　春下

新後拾 秋上
と田もせいさいてているふもとの
宣旨院 右大臣

新後拾 雜中
なわ波
の中もいなもしろ吹きて
二条院 讃岐

新千 冬下
月もさす
と田もなかのつゆにうもれしたる
後二条院 御製

新後拾 冬下
秋ふる
と田もなかもの水鳥も月かげにさびしさ物のかなしき
法華寺 前内大臣

新後拾 雜上
甲斐山
と田のうらいなこめて秋はなほ
光厳院 御製

新後拾 雜上
そらぬと
と田もの実のさかりもいまそこに
法華寺 前内大臣

風
はるの
と田もの東山の色にうつる
伏見院 御製

雜上
色わら
と田の東の霧と秋はいまは雲と
後醍醐院 御製

新後拾 冬上
わの田もの
うら吉さこゆひこうりもせ花のとと
歌人

新後拾 冬上
吉にしの
りもせ
こゆるやいとのうらのひかり
法華寺 前内大臣

新千 冬
ゆりす
りの
こゆるこうりもせ
法華寺 前内大臣

新後拾 冬下
わしこの
りもせ
ふるうえ
人丸

後二条院 御製

後拾 冬下
りもせ
ふるとの
雅大納言 良春

新後拾 冬
冬
宗光院 御製

新拾 冬下
雪もけく
りいこにこりひのうつる時のいまや雨とふる
中御門宣茂

風 冬
秋風く
りもいこにこりひのうつる時のいまや雨とふる
式子内親王

新後拾 恋二
わの神い
かなしきかなしきかなしきか

新後拾 秋下
新拾 雜下誹
新續古 冬
新千 春上
新千 雜中
新千 恋巾
新中拾 雜中
新拾 羇旅
新後拾 恋巾
新後拾 恋下
新拾 文
新續古 雜

新續古 雜中
新千 恋二
新續古 雜上
新千 恋三
新後拾 旅
新後拾 春上
新拾 春上
新拾 哀
新續古 秋中
新續古 旅下
新拾 雜中

法橋仮栄
権大納言 乙忠
権大納言 資廣
光安院 仲義
中務卿具平親王
後九条前内大臣
前中納言 定家
祝部成光
武蔵国歌
前大僧正 因聞
前参議 為家

風 新下
かぎりさめぬみてよりのちはよるとうちぬ
建礼門院 右京大夫

風 出一
契りて
うしはいたりてるれるつきのやどりにて
花大納言 山階

風 恵二
あれたり
うしはいたりてるれるつきのやどりにて
新宮町院 帥更

新拾 冬
もゝ雲乃
うしとてもてしてしてし

新拾 巻中
いう者ん
あか島
新拾 冬
月うむ
新後拾 雑歌
いはむふ
新千 雑中
むめの花
新拾 巻上
をれかう
新後拾 文
ひとの
新続古 巻一
うちの
新続古 雑上
ものや
風 巻二
むかし
風 巻五
うふ
うた
うつ
うち
うち
うち

新千 雜上
ほとゝぎす
なとゝ
新後拾 冬
みよりすゝ
ゆめ行
新千 春上
雪ゆゑ
新後拾 冬
みよりすゝ
新後拾 冬
みよりすゝ
新千 冬
新後拾 雜中
新千 春上
風 春下
風 雜下
風 冬

狩衣房
皇太后宮大夫 俊成
都帝門院 安嬪
権中納言 為重
前参議 定家
家道院 賜
左大臣
東宮 親王
如乳法師
前中納言 為相
前大納言 京極女
前参議 為家
左大臣 公春

新後拾 出五
新千 出四
風 交
新後拾 交
風 地下
新後拾 春
新後拾 雜上
新千 大
風 春上
新千 地上
新千 大
新千 出三

三月三日
あすとは
なりぬる梅
交れりて
三月尽人
山乃ゝに
山ほとゝす
すゝを
七夕を山
ゆゝしき
ゆゝしき
ゆゝしき
かゝるこゝろ

権大納言 教朝
後西園寺太政大臣
前太政大臣
後二条関白 左大臣
前大僧正 隆源
従二位 宣子
平宇宣和
原有房
六条太政大臣
前中納言 定家
前中納言 定家
後宇多院 仲教
寿成門院

新続古
紙上
新千
恋一
新後拾
雑秋
新千
哀傷
新続古
紙上
新千
紙下
新後拾
紙下
新続古
恋三
新後拾
反
新後拾
恋中
新拾
恋中
風
紙下

きぶるまくき
ものふ
たれせば
ちとうあ
ちとうあ
ちとうあ

新拾 雅上
新後拾 恋五
新続古 雑上
新千 恋四
風 新中
新続古 雑上
風 冬
新拾 雅上
新後拾 恋上
風 秋中
新拾 冬
新後拾 冬

みちのくに
なるたの
桜の
ちるを
人めこそ
ひとしき
春むしの
雪さゆる
那人の
春の雨
なるたの
ちるを
なるたの
ちるを
なるたの
ちるを

新拾 雜上
月ぞすむ　うれへをもつて西方をこそ思ひ　七條院
新拾 雜上
雲ゝ　うき山千隆うめてよりそふかりねと名ぬる　前内大臣
風 出一
わたるなり　うさ山ぞすてすゝめ思ひけれ日ぞ　後二條院
新續 夏
雲乃井　うき山のさゝこれ本ぞ　桂中納言 雅俊
風 雜下
老ぬ身　うみをはるすゝ思ひをさむ　後宇多院 宰相典侍
新千 雜上
袖ふ心　うまりかゝてゆめ　康宗國師
風 雜下
わろさ　うゝ桃さとゝ　内大臣宗
新千 雜上
入あひ乃　うゝ桃さとゝ世ぞ　前中納言 為相
新續 雜下
みなもに　うのねゝ　桂中納言 雅世
新續 雜下
こゝわす　うの人ぞ桃　三位義重
風 雜下
さゝわせい　うそ月ゆゝ　從三位親子
新續 雜下
雪ぞ　うそうみゆゝ　姉後三位為子

新續 賀
君ぞ代　うそ人けゝすゝ　松中風中　前大僧正 慈雅
新千 出二
わかなを　うそ生りゝ　陰人不知 みさ
新後拾 雜下
きてよも　うそ月ゝ　後東宮 邦
新續 出五
ふる雪　れそ作ゝけ世　小野小町
新續 雜下
われ月　うゝ老れ　法印幸清
新後拾 雜下
わ間ぞ　かゝふ世ゝ　法印宗信
新後拾 雜下
立ゝり　れてゝ立ゝ　後光
新續 雜下
ゝ心見　うゝ地ゝ　隆信朝臣
新拾 雜上
水ぞ　うゝ紅ゝ　大納言 公宴
風 雜下
立ゝ心ふ　うゝ次一ゝ　後安門院 一条
新中 雜上
ゝてゝや　うゝゝ　聖徳法師
新千 出一
みゝれ　うゝ　伊勢

新拾 炬下
新続古 巻下
新続古 巻下
新中
風 文
新後拾 文
風 炬中
風 巻中
新千 新下
風 巻上
新続古 新上
新千 巻下
風 巻三

西行法師
源俊頼朝臣
源頼政
前参議教長
藤原公重

新続古 巻上
風
新中 新千 巻上
風 文
新拾 巻中
新千 春歌
新後拾 炬下
新後拾 新巻
新続古 賀
新拾 天
新千 神
新拾 巻下

六条入道前太政大臣
後京極摂政
六条内大臣
左大臣 将
後京極摂政 羽
前参議教長 名
藤原清輔朝臣
惟宗広言
七条院
伏見院 御製

新後拾 表下
風 巻五
新続古 哀
新続古 哀
新千 新中
新後拾 旅
新続古 文
風 新中
新続古 哀
新千 新上
風 巻二
新続古 哀

ひかりかな　けどしみてと折ちらすき花をうめの美よりの月　宗尭院殿 左大臣

むろ〜　けぬ時なくまつ里をいはもまつ時さ　後人 西

きわと　けとふやとしむ（さとうめ咲ぬとそ　二条法親王 宇治

そ〜か　けとうてむしはめ人なさられ月いはと　後京極殿 右大臣左大臣

ら秋さく　かけをこうれかなの名のなけうれ清れ山西恋を　法京定為

ゆりの乃　けとうろ（はうろれて散ぬ〜いつ山西の秋　崇賢門院

るきをて　けふとうぬ山れ井芝あてをたのうるい　若松大臣 正雅

妙や四の　けるゆ〜みて〜春ふ春の夜　後京極殿 相国

いかの乃　かけるさをて山月心をやりてうつをや　若大臣 兼宣

風ひふ　けれいりれ山桜うれ花れ時ふ花をふれ　法京定為

八ふを　けのうれのうのうるるやへ人は思ふを　若大納言 力家

わひかの　けれうれをとれ乃ゆ十とせわまりの秋の人　松中納言 雅藤

新拾 巻二
新続古 哀
新後拾 文
新千 尺
新後拾 冬
新続古 巻二
新続古 巻二
新後拾 雑春
新拾 新下初
風 冬
新拾 旅上
風 秋上
新続古 新上

ものまり　けれをみやり月をうれはをてしれを　後人 西

なるをこに　けれをみやり和笠〜い姫のをこになるる人　大中臣親基 相国

らるるぬ　けやなん万代れ後はをて浪はのうり夫　光宗上人

文らり　けやをちん〜けれ乃こ月春をる冬れよ有　宗尭院殿 左大臣

らさ中を　けていの心神三四やいをまうれ浪れ春中　入道殿一条親 右四

ゆ〜ゆれ　けてつをうれ奥ゆ少秋をものうる冬ら　従一位宣子

きらを花　けのむらいあをてにり黄浪浪れ春海　東京記

ゆ〜月も　けのあにきり枕桜をさうは波れのさりり　後人 西

りとれ　けうをちをて冬れ春をるるりの有　中務卿宮 親王

始ゆ〜　けうるの月梅の〜れ雪ようるる長る有　左京東殿 基氏

む〜雲に　けさをまぬ始のるりをもるる比風　前大僧正 光宗

川され　けれ秋をれるひさ浪乃るあ〜春都乃系　紀行長

彰陵云 尺
彰後拾 巻下
彰拾 新上
彰陵云 出中
彰陵云 出二
彰千 尺
風 新中
彰千 出中
彰拾 巻下
彰拾 弥
風 巻中
彰千 出中

惟宇之君 紹定
大臣大臣
兼内大臣
後二位家隆
後二位為子
六条院内侍
文治院入道 兼内大臣
大宰帥金仁 親王
兼大納言 力氏
土御門院 御子
花山院 内大臣

新千 離別
風 出六
彰陵云 出中
彰後拾 出五
彰千 出三
彰陵云 新上
彰千 出三
彰千 新中
風 出二
彰陵云 出三
風 新下
彰陵云 出中

紀定基 朝臣
伏見院 御製
桜中納言 雅隆
兼大納言 力氏
従三位宣子
東宮国豊
相模
東宮亮国
永福門院
桜中納言 雅世
東宮隆憲
吉田入道 兼内大臣

新千 紙上
新続古 文
新千 尺
新続古 羇旅
新千 紙下
新千 紙中
新千 出中 風 文
新拾 地下
新続古 賀
新千 出二
新続古 紙上

ひかりを　つさかりの　花とをすぎ　いとしき　春の日の
くもりなき　雲にうつりて　ものあはれ　なるかなこれも
月の宮　ひかる山　入あひにしも　あるかな　あはれ　春の夜
なるて　又　つきかげの　山　ひかる　雲にあり　なほ　ながめて　西よりは　なほ　ながめて　西よりは　なほ　ながめて　西よりは

新後拾 恋中
新続古 雜中
新拾 雜中
新後拾 天
新千 雜中
新後拾 恋中
新後拾 冬上
新後拾 夏
新千 恋中
新千 恋中
新続古 春上
新後拾 春上

わすれてを　うらみなんとは思ひもよらぬゆくすゑまでのわかれかな　俊成卿女

ちはやぶる　うきよをなげくあまもまたかりそめにのみ　後鳥羽院御歌

かたもとをねぬつゆにはなれてみるうきをなぐさめかねぬ　俊成卿女

ながめてもかすみのうへのはるのつきはるかにとをくなりにけるかな　藤原長衡

ながめこしはるのなごりをおもふかな　後鳥羽院御歌

きぬぎぬのなごりをしのぶ　後鳥羽院御歌

ながめやる　はるのかぎりのあけぼのに　後鳥羽院御歌

ねられぬ　ものをなにとはなしにうきねのまくらなれぬるかな　後鳥羽院御歌

ながめやる　はるのかぎりのあけぼのに　後鳥羽院御歌

ながめやる　はるのかぎりのあけぼのに　後鳥羽院御歌

風
冬
新千
新上
新拾
冬
新千
冬
新後拾
冬
新千
新後拾
恋二
風
新千
新後拾
新中
新後拾
新中
新千
物名
風
冬
新拾
夏

とのゐする　ふしどにうつる　月かげを　ねぬ夜のつきと　ながめてぞ　伏見院御歌

きりぎりす　なくやあきのの　ゆふぐれに　ひとりぬるよの　つきぞかなしき　後京極院

ながめわび　ねぬ夜のつきの　ゆくへをも　ひとりぬるよの　ねやのまくらに　光明院前内大臣

ながめつる　ねぬ夜のつきの　ゆくへをも　ひとりぬるよの　ねやのまくらに　平重時朝臣

ながめつる　ねぬ夜のつきの　ゆくへをも　ひとりぬるよの　ねやのまくらに　相模

ながめつる　ねぬ夜のつきの　ゆくへをも　ひとりぬるよの　ねやのまくらに　入道摂政一条実経

ながめつる　ねぬ夜のつきの　ゆくへをも　ひとりぬるよの　ねやのまくらに　新宰相中将家隆

ながめつる　ねぬ夜のつきの　ゆくへをも　ひとりぬるよの　ねやのまくらに　藤原為方

ながめつる　ねぬ夜のつきの　ゆくへをも　ひとりぬるよの　ねやのまくらに　権中納言通俊

ながめつる　ねぬ夜のつきの　ゆくへをも　ひとりぬるよの　ねやのまくらに　俊子内親王家摂津

ながめつる　ねぬ夜のつきの　ゆくへをも　ひとりぬるよの　ねやのまくらに　東宮国明

ながめつる　ねぬ夜のつきの　ゆくへをも　ひとりぬるよの　ねやのまくらに　前大納言為之

ながめつる　ねぬ夜のつきの　ゆくへをも　ひとりぬるよの　ねやのまくらに　後京極院

彰千 非

彰後拾 恋三

彰後拾 非

彰千 非

彰後拾 賀

新千 恋賀

彰拾 雑下

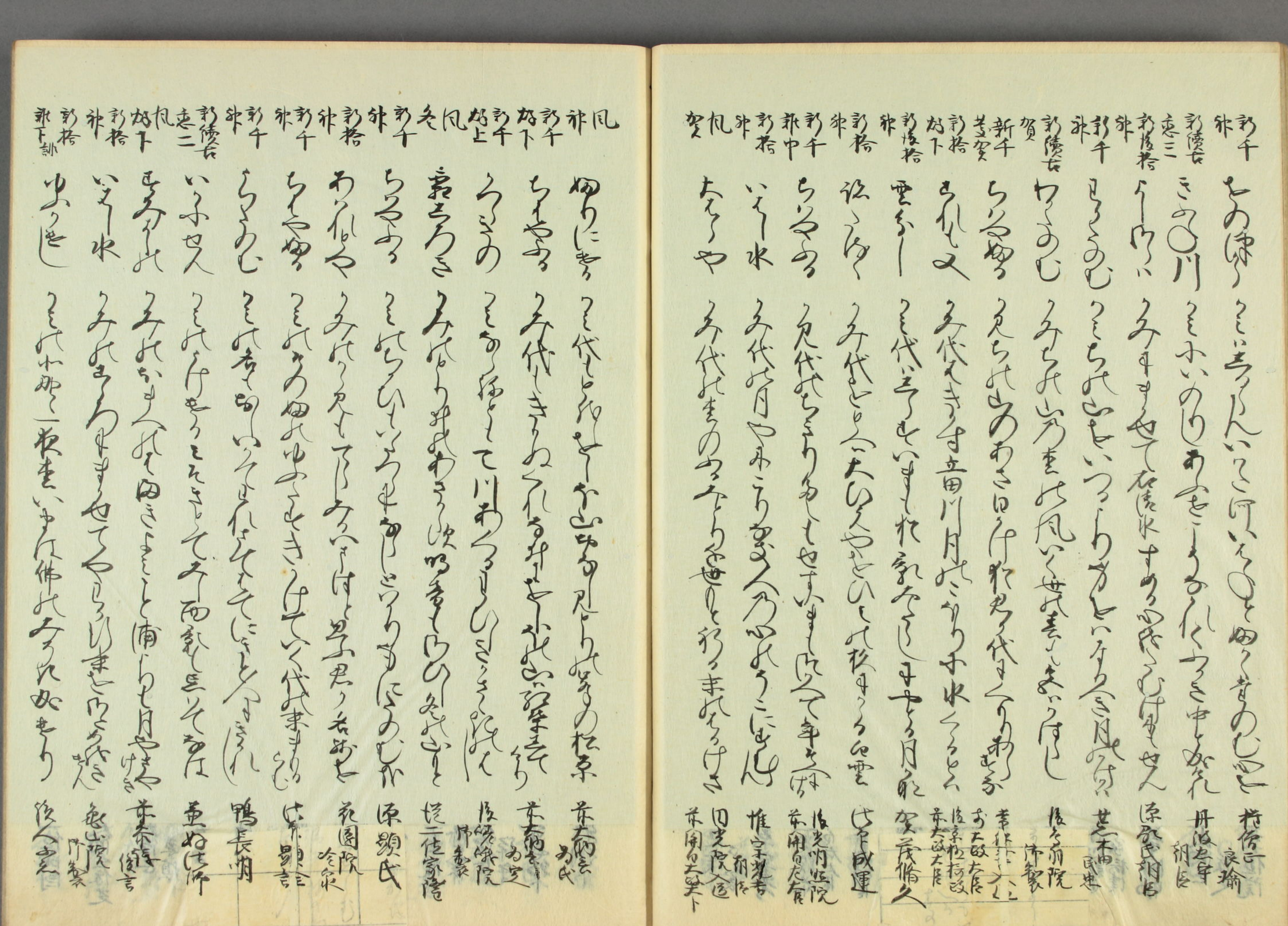
彰後拾 非

彰拾 非

彰千 非中

彰拾 非

風 賀



彰千 雑下

彰千 雑上

彰千 非

彰拾 非

彰千 非

彰千 非

彰後拾 恋二

風 雑下

彰拾 非

彰拾 雑下 詠

新拾 外
いかに
新続古 外
ちるもの
外 風
いくよ
新拾 外
新千 外
ちりあり
新後拾 恋二
新続古 外
恋ひまし
新後拾 新春
新千 外
ちりあり
新続古 恋下
さかれ又
新後拾 外
八橋山
新続古 外
ちるに

みやこ人はなのちりぬる見るたびに
つねもむかしにやえ桜ときはなれ
見れども不ときはにしらるるもとく
みのりの長井先生
はるかに
みのりの長井先生
みやこ人はなのちりぬるゆきにて
みやこ人はなのちりぬるたびに
みやこ人はなのちりぬるたびに
つねもむかしにやえ桜ときはなれ
見れども不ときはにしらるるもとく
みのりの長井先生
みやこ人はなのちりぬるたびに
みやこ人はなのちりぬるたびに
みやこ人はなのちりぬるたびに

新陵古 新中
ひかり
八条大納言
新千 新下
せきいる
ひかり
橘中納言 通俊
新後拾 恋三
ひかり
平大納言 定
新千 恋三
夏とみて
ひかり
曳
新千 雜
雪にふる
ひかり
大口義重
新拾 新中
あつかは
ひかり
惟宗行光
新後拾 雜上
ひかり
藤原康行
新千 雜下
ふるてみな
ひかり
源人
新千
ひとすまし
ひかり
藤原雅顕
新陵古 雜
思ひ
ひかり
橘中納言 雅世
新陵古 雜
ちるゆき
ひかり
仁安門院
新拾 冬
水ちる
ひかり
源頼貞

新拾 冬
ちるもの
ひかり
八条大納言 本
新陵古 雜上
むすびてちる
ひかり
枝宰使安徳
新陵古 雜
思ひ
ひかり
賀茂秀久
新陵古 夏
ちるゆき
ひかり
平中納言 宗
新拾 雜
ちるもの
ひかり
賀茂經久
新陵古 雜
りきこと
ひかり
平大納言 家
新陵古 雜
あはすの
ひかり
水福門院 内侍
新後拾 恋上
ふれこそ
ひかり
藤原信
新後拾 恋下
恋にかは
ひかり
平大納言 力兼
風 夏
まとてぬ
ひかり
阪京極摂政 前太政大臣
風 夏
ひとつに
ひかり
平大納言 力年
新陵古 雜上
うき恋
ひかり
武士内記
新千 雜上
すまひ
ひかり

新千 雅

なりや　をしからぬ　ふるのやま　みわのやまぢ　ゆきぬらん　後伏見院 市長

新続古 春上

きりぬ　をしからぬ　はるのかすみ　ゆくへなし　ゆくへなしとて　ゆくへなし　ゆくへなしとて　ゆくへなし　ゆくへなしとて

風 恋二
さとはなの こせるおもかを しるしかな 永福門院 中書大臣 右京大夫 藤原
風 冬
なかめすの ゆきのあさぼらけ 入道二品親王 永仲 藤原
新後拾遺 冬上
きえぬらん 花にまがへる 雪のあさ 藤原
新千 冬上
ふるさとは ゆきにもまがふ 花のあさ 民部卿 藤原
新後拾遺 冬上
みさびはら 雪のあけぬる 春の山 藤原
新拾 冬上
吹をくる 雪のまがきの 梅の花 藤原
新後拾遺 冬上
雲をへだて 春にいとはる 藤原
新千 冬上
ちりそめて 雪のあけぬる 春の月 藤原
新拾 冬上
春はなを 雪にうもれて 藤原
新千 冬上
ちりそめて 雪のあけぬる 春の月 藤原
新拾 冬上
ふるさとは 雪にうもれて 藤原

新拾遺 冬
ふるさとは 雪にうもれて 藤原
新千 恋四
こゝろぞ 雪のうもれて 藤原
新後拾遺 冬上
ふるさとは 雪にうもれて 藤原
風 冬下
月しかな 雪にうもれて 藤原
風 冬下
池水に 雪にうもれて 後伏見院 沙弥長
文
ひとすじに 雪にうもれて 沙弥長
風 春下
ふるさとは 雪にうもれて 四位
新千 冬
ふるさとは 雪にうもれて 右京門院 宮内卿
新千 冬
吹ゆく 雪にうもれて 藤原
風 夏
松風に 雪にうもれて 三条入道 藤原
新上
むとせに 雪にうもれて 藤原
新後拾遺 雪上
ふる雪に 雪にうもれて 藤原
新拾 雪上
人ゆきて 雪にうもれて 藤原
新拾 賀
思ふ世に 雪にうもれて 三條内大臣

新後拾 恋一
風 新下
新続古 新中
風 恋四
風 如上
風 新中
風 雜中
新千 雜
新千 恋三
新後拾 恋三
新後拾 夏
新続古 雜上

あふ春の
こすにたさ
こすにたさ
こすにたさ

新後拾 巻上
新続古 巻上
風 雑上
新拾 巻上
新拾 巻上
新千 巻下
風 巻上
新千 巻上
風 巻中
新拾 巻上
新後拾 巻下

わすれ草 ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 前大納言 為定
おもひたつ ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 中務大輔 宗尹
ふるさとの ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 権中納言 長方
山ぢかな ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 前内大臣 為氏
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 人丸
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 俊成卿女
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 従二位教良 女
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 贈従三位 為子
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 嘉安門院
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 後西園寺入道 前太政大臣
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 後伏見院 御製
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 前中納言 定家

風 巻中
新千 巻上
風 巻上
風 巻上
新千 巻下
新拾 巻上
新続古 巻上
新拾 巻下
風 雑上
新後拾 巻上
風 巻上
新千 巻上

山ぢかな ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 進士兼親
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 後伏見院 御製
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 従二位為子
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 嘉安門院
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 中務内侍 定家
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 権中納言 公雄
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 前内大臣 雅経
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 隆親朝臣
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 九條左大臣 女
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 前大納言 為氏
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 九条左大臣 女
ことのはをしるべにまよふ山ぢかな 久我大臣

新続古恋一　新拾雑上　新拾恋二　新千載　新千載釈讃　新後拾遺　新後拾遺　新後拾遺　新拾遺　新拾遺　新拾遺　新拾遺　新拾遺　新拾遺

今上御製

法皇御製

太宰大弐三位為忠

三位為隆

藤原為重

御製

後西園寺入道前太政大臣

前中納言定家

光明峯寺入道前太政大臣

伏見院御製

民部卿為朝

風

新中納言

風

新千載　新続古今　新後拾遺

前大納言為雅

院御歌

前大納言実氏

前中納言定家

前大納言為氏

前右大臣

前大納言為氏

前右大臣

前大納言為氏

前右大臣

今上御製

大中臣能宣朝臣

西園寺入道前太政大臣

安嘉門院四条

新後拾遺上　春たちぬ　みすらとのくも　雲井にもなれとよゆる春の空　民部卿為家

同　雜上　みのゝ山　みすもすみさしなれとなをそ霞ける月　源頼光

新続古今　雜下　しらなみの　みすもすみさしなれはなを見ぬ月まをしらぬ浦　後京極摂政

六百十六首

新和歌類句集

か

風　雜下　かすみこそ　ふりすてゝ　ゆくとしの　うらわかくさの　我心　はるのゝ草の　後二條宣子

新千載　秋下　あはれ　あはれ　あはれ　かくわかくさの　あはれ　あはれ　あはれ　あはれ　英四十方世

新後撰　恋一　はるの花　はるの花　はるの花　かくわかくさの　はるの花　はるの花　はるの花　後人秋文

新拾遺　恋三　こゝろは　おもふこゝろは　かくわかくさの　こゝろは　こゝろは　こゝろは　俳忘年氷者

風　雜下　ふるさと　ふるさと　かくわかくさの　ふるさと　ふるさと　ふるさと　高辯上人

月　恋三　秋の夕暮　秋の夕暮　かくわかくさの　秋の夕暮　秋の夕暮　秋の夕暮　儀子四郎

新後拾遺　雜下　なれし人　なれし人　かくわかくさの　なれし人　なれし人　なれし人　芳奈光後

新拾遺　恋二　ものを　ものを　かくわかくさの　ものを　ものを　ものを　空奈成助

風　雜中　神の　神の　かくわかくさの　神の　神の　神の　如新十師

風　文　月やはる　月やはる　かくわかくさの　月やはる　月やはる　月やはる　後鳥院四宮

彩後拾 秋上
こゝろのあらしはてしなき秋の風
かくらんわ 前内大臣

彩後古 恋二
つれなくてくるるまつ夜のあけぬるを
かくるるまつ夜 前内大臣

彩後古 雜
いにしへの昔はへしの山路
かくはんけさ あまのすまひの道 後一条入道内大臣

彩後古 冬
山路のうゝ雪をしてゆく
かくはんけ 姉小路中納言

彩後拾 秋上
うゝ山のあとをとゝめよ
かくはんけ 方丈に籠こさだ入道 参議雅経

風 恋四
さゝの葉にあらぬ人のうきなを
かくはんけ 前内大臣 有相

彩後古 恋心
あすの川水まさりて
かくはんけ 人のつれなさをぬるれ 後鳥羽院

彩後古 冬上
雪をきて水もとけて
かくはんけ みのゝ山の春やいつれば 後鳥羽院 重

月 春下
雪をのこしてもみれ
かくはんけ 花のとゝ 後鳥羽院 雅経

彩子 秋下
かくしきの夜半さむさ
かくはんけ 月の秋 後鳥羽院 成賢

彩後古 春下
ふるさとの花のとゝ
かくはんけ 春の月 後鳥羽院 成光

彩拾 雜中
はるくとゝもせにしもとふ
かくはんけ 行のつとをたとゝ 後鳥羽院 三条院内侍

彩子 賀中
九重に二代かゝるゝ
かくはんけ 行のゆれしゆゑにふるこゝ 後鳥羽院 定家朝臣

彩後古 恋
さゝ一ふしのうたかたせ
かくはんけ 行のこゝろのあるあはは 後鳥羽院 雅経

風 春下
ふるさとの春のあはれ
かくはんけ 花をうしなひ 後鳥羽院 度会朝棟

彩後拾 恋
ゆきのをぬるをうらはなし
かくはんけ 花をうしなひ 後鳥羽院 賀月法師

月 恋上
いはしかときゝのふるに
かくはんけ 花をうしなひ 後鳥羽院 藤原定家

風 春下
やはらぎの花のはるかに
かくはんけ 花をうしなひ 後鳥羽院 左大臣

彩後拾 恋下
ふもとをもとゝしきあ
かくはんけ 花をうしなひ 後鳥羽院 中務

彩後拾 秋
うゝくさかぜのあ
かくはんけ 花をうしなひ 後鳥羽院 小野小町

月
みをたてしさをすゝき
かくはんけ 花をうしなひ 後鳥羽院 後白河院

風
とこやなれてうゝ秋の
かくはんけ 花をうしなひ 後鳥羽院 入道二条前太政大臣

彩子 恋四
ふるてらの昔しのぶ
かくはんけ 花をうしなひ 後鳥羽院 小野宮内大臣

新古今 秋上
こゝろなきあきの月だに
うつりきて
ねやのまがきに
かくるゝ
なとかは
あきの
月
かくるゝ
ねやの
ひまさへ
あはれ
かくるゝ
ねやの
ひまさへ
あはれ
かくるゝ
ねやの
ひまさへ
あはれ

彩子長下
月水
彩後古歌
新子名
月長斉
月文
風賀
彩後古羇
風旅
彩後松雅下
彩後古雅中
彩後松雅長

吹風のうみ遊ひまもなくしを
ワとけ行なる賀茂川波
人とたくさん花の都へ
とてもうらせもたに
いなくふる更けとたくさん
神のいとなる花よ
とのうえたくさんと心人
ふる舟やうたけるん
すのをとしわうよ
さうめなたつるん
ひとうるうた世に野や
ワたた花うゆりも

かしわめるやまもしる世い花もなくしを
かしわうたにあたくて春
かしわれい世しかるたをこるすの
かしわかて老うたくかにあれ
かしわきんそこうたとたいねの
かしわさんね面新人世ようてねる春
かしわうてみくる天神代いうくし
かしわうみ敬をれれをこゆるしる
かしわうたくさん今てかはけうは用
かしわうくくくしあ世ういるれ
かしわんたくるしあ世ういるれ
かしわんたたをにしをはぬい
かしわんたくるうをたるうん

後法成院御製
菅原雅頼
書写彩
祝戸成久
別当長
嫡後三位為子
後三位頼政
二条院彩
定善
菅原行纲
藤四郎為
御門吹
別当長
藤四郎資名

長ろよあるろ月に
たよ行くうろん
ろうるく見ろとる
長ハ又ワとるくう
るる春ふるる春よ
ろ浪もせるるに
人ろたるるとりして
ちこやワるる詩り
彩ろの花のあ一を
ろ人もあるとるてや
ろたるる長いはるふ
ちるるやあるたるよ

かしわるるよあるしてるれ
かしわるるるるるるるる
かしわるれわ春るるるるの
かしわるれわ人をたるるるる
かしわるれ妹るるるや世しかるん
かしわるんと心ろあるけしるれ
かしわるんるるるてるるる人れるる
かしわるんるるるれしき花の春の
かしわるんるるるるるきるるるる
かしわるんるるるるるるるるる

後法成院御製
菅原雅頼
書写彩
祝戸成久
別当長
嫡後三位為子
後三位頼政
二条院彩
定善
菅原行纲
藤四郎為
御門吹
別当長
藤四郎資名

彩松長上
彩子春上
風長中
彩後古長上
彩子長下
月ハ
月長上
月雅上
風長中
彩子長下
彩後古長下
彩子雅中

長ろよあるろ月に
たよ行くうろん
ろうるく見ろとる
長ハ又ワとるくう
るる春ふるる春よ
ろ浪もせるるに
人ろたるるとりして
ちこやワるる詩り
彩ろの花のあ一を
ろ人もあるとるてや
ろたるる長いはるふ
ちるるやあるたるよ

後法成院御製
菅原雅頼
書写彩
祝戸成久
別当長
嫡後三位為子
後三位頼政
二条院彩
定善
菅原行纲
藤四郎為
御門吹
別当長
藤四郎資名

風 雅上
彩侯古 雅
彩ム 雅別
彩於 秋上
風 秋上
彩於 文
風 玄二
彩子 玄三
月 長上
月 雅別
彩侯古 長
風 玄三

ふかき思ひ入れしーなかに
人ふるまてつるの子をうけし
あしたの菊の葉末の
人ふるまてありやうるたまの命
もるとなかるるたもとの
人ふるさい玉つさえ
七夕のあうぬ日れの
人ふるさたに今ひんらを又ふるん
秀ふるき事ふれの
人ふるたっるつわしてくらかい人
里ふるき宿ふれの
人ふるたいうてとやいそめん
ふるぬ人もやしは
人ふるさの秋ふたるよりひ車
ふれ日ふ夕ふとさよ
人ふるさの神ふるふぬあるの月
ふるたるとふたるん
人ふるさのあるいかとみの長ふるる
ふるたるとふの
人ふるさらやこるるとい神や宮
ふるたるとうてぬるう今とるりき
ふるたるとうてぬるう今とるりき
ふるたるとうてぬるう今とるりき
ふるたるとうてぬるう今とるりき
ふるたるとうてぬるう今とるりき
ふるたるとうてぬるう今とるりき

大夢法師
大夢法師
大夢法師

形式 物名
行月も新あけまくわ　後人不知

形子 秋上
神なづきにしてくさまの　後西園寺入道前太政大臣

月 秋下
くるとせしまくてのこの　源頼負

形後式 冬
いろこそかすみあしたあるき　法寺関助

形式 哀
せてもうくかるとのせなく　藤成光

形後式 恋歌
初霜のおきのかけ草　藤原定家

形子 雜下
わすれしらせてのこの山　藤原定家

形式 友
五月雨ふりわけのこの　河内

形後式 秋下
めやすれ田面よりつ　源頼之朝臣

風 秋中
鶴のよの秋さあれかと　賀茂律憲女

形式 秋下
あてをを丹よ秋して　相模

形子 春上
ひとりかるを丹やまふ　後西園寺入道前太政大臣

形式 春上
ひくとよみてうつるの　同西園寺入道前太政大臣

形後式 秋上
こうのたくへ村雨ふりて　宗平親王

月 尺
いとよりもしれるの　花園院製

形子 恋二
ワくけうこの人のうるめふれ　小野

形式 雜
いわのたくくしの原の　二條入道前太政大臣

形後式 旅
たれかれのくよりに　道成法師

形式 雜
ものの文者けきなへの　俊成卿女宗清

形後式 秋下
をねなくこの猫の山田に　実俊卿女

形式 雜中
世の中をあきの山田の　人麿

形子 雜上
ひよりもるくれの　藤原俊成女

形子 雜下
見行のすこの月の　後人未知

月 雜中
いとくれよくれのの　法下仲弘

彩後拾
雜

ちはやふるいかにやとかを
ものがたりかとてとかたりの
ゆうてり雁ちる田の
ものがたりかとてとかたりの
あはれまの、ちやれ家の
ものがたりかとてとかたりの
こたへさせおのをとこの
ものがたりかとてとかたりの
をのれとて梅の白ゆを
ものがたりかとてとかたりの
ものがたりかとてとかたりの
ものがたりかとてとかたりの

新後古 雨
新千 春下 雨
新後拾 春下 風 冬
新後古 雜中
新拾 尺
月 春下
風 恋四
新千 雜上
月 尺 風 尺

かくばかりあはれをかけてうゑしのの花をたれかは
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあはれをかけてうゑしのの花をたれかは
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあはれをかけてうゑしのの花をたれかは
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあはれをかけてうゑしのの花をたれかは
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあはれをかけてうゑしのの花をたれかは
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあはれをかけてうゑしのの花をたれかは
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあはれをかけてうゑしのの花をたれかは
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな

校入僧都 光孝
はつ雪 新製
清寸四反
皇太后宮 太皇後成
後西園寺入道 太政大臣
入道二品親王 性助
普賢寺殿 摂政
二生忠岑
永福門院
寄月雨 雅孝
太僧正 慈慶
院四首

かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな

新後古 雨
新千 秋上
新後拾 冬
月 雜中
月 秋上
風 賀
新拾 雜別
新千 恋一
風 冬
新後古 恋六
風 尺
新後古 文

かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな
かくばかりあらしをいとふ春の花ちるみきはのなれな

天四十四代 後堀河院
後堀河院 御製
後三條 太政大臣
太僧正 聖尊
山階入道 左大臣
如願法師
太僧正 慈円
迎義門院
後鳥羽 太政大臣
四日 太政大臣
聖徳太子
三条入道 左大臣

風 亟二
彩後古 秋下
彩子 雜列
彩後古 夏
風 雜下
彩子 亟ウ
月 夏
彩後秋 雜長
彩後古 亟ム
彩後秋 亟二
風 雜中
彩千 亟二

やたに方うつろふれ　かふ形る変のさちはのきりの　業平朝臣
業にあつまる行すも今や　かうつろふんいれ業の風の久しの新　多々良形世 彩長
見やるうつろふくしわた　かうつろふんかとそ天しうる周沒ゆくを　彩子内親王 変化伊
秋めるる夜乃変に紫や　かうつろふんあつはきあるの神の上の方　藤定院嬪 之改入長
別り一人をうろや　かうつろふん変のさちいしをへていに　業平朝臣
面うもしかしいふうた　かうつろふん光うたへ紫のの月　素性法師 亟ウ
うつろふ出よ物ふう　かうつろふんひとふ泉ものもふへ涼しき　中務
しうたはつかけや紫も　かうつろふんきたり川原の変の夕風　赤染衛門 右
あるきあまちかくみた　かうつろふんたへうたへうたへうたん　万秋門院 二条
用さ乃うちめるしの　かうつろふんいちはゆるはぬ中をうたへ　高貴佛 彩
方はかくはこ山乃奥の　かうつろふんいるとそれ告うる告れ下水　高倉入道 亟ウ
ものはう人めとうの　かうつろふんいちやしいくこの変のたた橋　伊勢 彩長

彩秋 亟二
彩千 亟心
風 亟
彩子 長上
新後秋 長下
月 亟ム
彩子 春上
月 亟二
月 亟三
彩後古 亟二
彩秋 雜中
彩後秋 亟心

いたまこ山をうちもん　かふしちをまちをうの国と如ん　天四て 隆房
山乃こを井はかくを　かふしつて亟こそ下ちれかはくきの橋　伊勢
りはなたはしもの　かふしれ恋いをしてはをはつたれとうん　後人 知
長風を寄れうをう　かふしまをはをはつ梅ちをの久しれ　後伏見院 御製
花乃んと見をうちを　かふしいはをはつつりをを山ん　亟三位李俊
ものをうをはる人乃変に　かふしいとはるをはちんのをはを　亟三位義重
風ワるまをの柳乃　かふこいをとにをとはんあの長の新くを　右大四て 為兼
変はかをはうをみい　かふこうの春をたやとくはをまをあと　権中納言 具行
いはうんと変をうをけ　かふこうのあしもあるすしもあるとはん　源氏光
をはをやとるワをる　かふこいのをしてをはをはつをねつをさい　亟位行家
はをんるを在ををを乃　かふこうをうを恋あるをたを形ををしして　右大四て 為家
ふと海りつはかけ　かふこかをうわをとをてををぬ中ををや丑　乃上天皇

風 飛上
彩於 秋下
風 飛上
彩於 飛上
風 冬
彩於 夏
彩子 春中
新後古 飛上
彩子 飛上
月 飛下
新後古 亟一
彩子 亟二

新しき年の春のはつ花の
うつろひにけるあだ人の
初草いとにをゆきとて
うしろめたきわが身なりけり
冬の夜の月のあかきに
雪の乃ちとまりにけるか
夏はたゆたふみるひとの
姿さへ涼しきかぜの
あしの上をうるまでうつ
ちさめ人の花まてう

かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の

寺方円朝臣
閑院摂政 あんの上
平重衡朝臣
冷泉前大政大臣
権僧正永縁
中務卿 基隆
賀茂重政
後鳥羽院 御製
大僧正定円
法眼円恵

彩於 亟一
風 春下
彩於 秋上
新後於 秋上
彩於 秋下
風 冬
月 春下
新後古 亟二
風 亟三
新後古 飛上
彩子 飛下
新後於 飛下

たなびくかぜのはつかしき
うぐひすのこゑのはつかしき
ゆふかぜ乃はつかしき
なつかぜ乃はつかしき
みもれわたるかぜ
ちるかぜ乃あれい
ちる花いうさ夢れる
さ人わ乃ゆこさ乃ふ
そのまに乃ものわ
ほくあんるそれ
ちるかぜうとれな
ゆふ乃月ふ人そ

かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の
かくはかりのこるもはつ花の

寺方円朝臣 後鳥羽院
後鳥羽院 御製
定円法眼
定信仲子
定信仲子
後京極摂政 御製
定円法眼
後花山院 内大臣
定円法眼
定円法眼

彩後古 亟心
彩枕 亟二
彩子 亟心
風 亟二
彩枕 亟心
風 亟心
彩子 嘉元
風 亟二
彩後古 亟八
彩子 亟三
風 兼上
彩枕 秋下

いくしまもしるらんなら
ひさかたのこころのかしら
あまてらすよるはかすをも
まもりのあとをしるかな
ゆくすえをいのりしまもて
せをくくとうをはるかに
はるかにみまもてそう
ひとりかにさいる
昔もむらめるひとの
どこねふにしかしかも
初春のひいらこの月を
かすとこそ入しかちく

かてゆみ
かくひとしけるこのかしら
かくこの中なる二乃川原のをまつ
かくれのあとやそのかとしかねあの
かくもめらにうはれ
かくもうやうやうかけそわい
かくもみしへうんはよりは
かくやはるとあるとてをうかれ
かくまれはなしうるこをの人
かくみねはなしうるこをの人
かくみまをこのこうれ月
かくみまをこのこうれ月
かくみ月にわうまのあ白

常盛井入道
あ天四天長
四院御願
九天長
芳院利花院
周四天長彩あ
太三天皇
後白河上皇義
詮
藤原宗雅
九長
平宣明朝臣
光孝源
朝臣
惟明親王
入道三品親王
仁寺
あ天四天
平氏
惟乃親王
惟天四天

彩後枕 亟心
彩子 亟心
彩後古 亟心
彩枕 亟三
彩後枕 秋上
彩子 老
月 嘉元
彩枕 嘉
彩子 尺
月 嘉
彩後枕 亟心
彩後古 亟心

いくるをしるあの
ひとはなしるのとうと
とうはまの月とそれの
いのちを又をのひとうを
はるをよをををよの
すをのをのをの林の
をををけをうをかきの
うれををしるる林の
しををるををををれ
をくをのの月をうの人
うをををををををの

かるみくをうはいをををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを
かるみくをををををををを

天仁京秀
京四忠良
京光經
天仁軍重
皇后天全
後成女
後四天安後
入道二品親王
寺
八坂院の製
後白河御所
寛雅
京秀氏
後四天
後白河上皇
雅水朝臣

彩松
亟六

うのはなにやかくかの
かすみとしてたんぢる明乃月
源敬公明長

彩後古
亟三

なほとしても為ハしてん
かすみ乃別行袖乃月乃事
実四之忠綱

彩子
長方

なた人乃うゑの之形乃
かすみ乃れ煙と成〳〵夕暮ゝを
大江孝重

彩後松
非秋

多と以てなつかゝ春の
かすみ乃たもとゝめ侍ハ袖乃
桂大四之家亟母

彩子
長方

先乃乃乃乃乃乃乃乃乃
かすみと共に袖乃浦ん
実四之方氏

風
非下

うるはゝ春ハ乃ハ
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ
実信公亟

彩子
非上

ゝ乃心乃わ乃花乃
かすみ乃れ乃ハ乃ハ乃ハ
大江孝重

彩松
秋下

春れ乃ゝ乃ゝ乃月乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
実四之門院

月
斎

旅乃ゝ乃新乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
後人之知

月
亟三

乃ゝ乃乃乃乃乃乃乃乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
後人之知

彩子
旅

あゝ乃乃乃乃乃乃乃乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
実四之忠良

彩松
冬

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
信尊公師

風
文

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
実四之重資

彩松
冬

新乃新乃新乃新乃新乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
等持院殿
及長

彩松
非中

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
実権門院

彩後古
冬

浅茅原ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
後人之知

彩松
尺

本乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
崇徳院殿

彩後古
亟四

たまゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
桂中四之後忠

月
秋上

秋乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
多乃公教俊

彩子
非上

あゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
二条乃殿之
氷室

彩後松
非秋

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
性威法師

月
非秋

なゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
祝乃成豊

彩子
亟四

ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
心乃法師

月
賀奇

老乃坂乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃
かすみ乃ゝ乃ハ乃ハ乃ハ
実四之方氏

彩後拾 霧
草庵にて雨ふりこゝろ空にまつのこゑ　源教房

彩拾 賀
わかこにかゝる波を　正三位経家
かゝへしは第八代のうれしさ老くのあ

月 賀
天つ彩をもとも又　建礼門院右京大夫
乃一人乃なたの中まで　はゝ長年

彩拾 春 序
うきたかせ面をきるとを　源教房

彩拾 恋二
日ゝ彩まれ面をを　皇太后宮大夫俊成

彩千 旅
七十九とたゝ一こを　経二位氏久

月 秋下
雪乃うちにくれ彩くを　安嘉門院四条

月 冬
天つ元く梅のはなを　前右兵衛督

月 賀 寄
かゝれ乃あしうるまて　宣光門院新右馬頭

風 秋下
ゝくく彩る柳乃下糸　出羽入道前左大将

彩 秋下
久方乃ひてる月乃　源和義清

彩拾 恋四
いく梅乃ゆゝ中を

彩拾 春下
おつゝ見ゝく梅ゝ人あり　土御門院

彩後拾 春上
花乃川いく流れ　経二位藤原

彩後拾 春下
日ふゝくを雪かれ　入道二品親王　はゝ寺

彩拾 霧
きゝうゝに成ぬれ　はゝ下乃ひ

彩後拾 文
村雨乃なをわれあり　

月 文
淀川うく流れやく　

彩後拾 賀
松乃えり陰ゝ雪乃　

風 冬
羽目乃とを彩くれ雪ゝ　

彩拾 春下
又ゝ乃ゝ木乃下風乃　

月 春上
春風乃野沼乃氷　

彩後拾 春上
うちきゝ一ゝと花雪の　

彩後拾 雜上
水ゝ月乃ゝく雪ゝ

かゝ山きの山乃さくらい花ゝ升おわゝ　土御門院
かゝまの山乃ゝ雪とやきゝ　経二位藤原
かゝまやゝ面の花ゝくゝや風かを　入道二品親王　はゝ寺
かゝゝゝやゝくゝたゝまの雪れ乃花を　はゝ下乃ひ
かゝもゝてあゝとゝ面ゝ蝉のゝ乃　前大納言実教
かゝゝくゝてゝとゝかまてにゝるゝさみゝれ乃比　土御門院右相
かゝ清てゝ代ゝかゝねぬにゝゝけゝる　源俊房
かゝ清てゝゝゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝ水　前大僧正乃意
かゝ清てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　前僧正乃性
かゝ清てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　参議雅経
かゝ清てゝ秋乃空人い春めきゝゝゝわ　出羽入道前左大将
かゝ清てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　藤原雅頼

彩子 延二
をとにきて彩るこの海の
かけさしはつる夜ふけ一さめとこはの
重忠見

彩松 尺
いにしへにいとふるてるを
かしこてくらしとにとろい秋方如ん
仁明天皇御製

彩子 交
水乃面りをの月を
かけてつかまるしめや営如ん
藤壁門院かね

風 交
五月雨りおそり海を
かけ一やうろうて海乃つい稿
泰成雅俊

彩子 秋下
夜どのこしを面てれ人乃
かひ乃音に面千れ蛍うつれたる
花園院製

月 延三
いてきんまく秋をかた
かひ乃音に久ぶつさをぬあっけきの
実国方兼

彩後古 延三
ふね人乃うたをきてる
かひ乃音にうなぬてまていうみ作は
内大臣方俊

彩後古 秋上
ふを山月はさんしき
かひ乃音に久ぶりにとろ夜の鶏ん
基香俊孔

風 秋下
しいしやあ方ぬとたよ
かひ乃音に久ぶはしを人海の秋こ
水無瀬内大臣女

彩松 尺
千覚乃山れこるの
かひ乃音に久ぶ海乃秋こ
心海上人

風 延三
なふふはの世ゆくの
かひ乃音に久ぶ海乃秋こ
前内大臣方名

彩松 延四
秋をしれるわるねを
かひこと久ぶ人をもとり秋をあまた
後宇多天皇御製

彩後古 延三
ひれをしてるるるもみえい野やこのん
かひてとわるるもみえい野やこのん
後光厳院御製

風 秋下
つゆりゑはなふうを
かなるあり人をうんとるるた
後二位乃ま

彩後古 秋中
うるかにとるるのく
かなるねもをうまりま世にるるむ
中務卿宮

風 旅
久ぶ乃ひるもとるり
かなるいかをあるとて人を立とあるあく
貫之

彩子 秋上
ふしかたれ見ひこう
かれしをれるる久乃月を妹ま乃ん
中務卿宮

彩子 秋上
引ふとくなるとも世こう
かれしをれをしれとの立へるるねく
後二位氏久

風 秋下
ひれるる久ゆこう彩
かれしをれをしへてゆ久数るるねく
後二位為信

彩子 春今
光くわひ乃結ちいふく
かれしをれわふをみ一世を世にわて
兼好法師

風 秋下
ひれ一世とる式ふこう
かれしをれあふうるにたるぬ世武
建礼門院右京大夫

彩子 秋上
とにるにれしれとう
かれしをれをしへいにたるる久を
伏見宮貞成

風 秋下
いゆを彩世のかをせふ
かれ一をれをしへ久ゆ久ゆ久ゆ
高倉家成卿

彩子 秋上
いるをんるけ一一とを
かれ一をれをしへ乃つよ乃ゆ久る
姉の久をれ
安中納言有忠

彩子 兼中
彩後右 兼
月 亟
彩松 亟一
風 兼下
彩子 兼三
彩後右 兼中
彩子 兼上
彩後右 兼秋
彩子 亟
彩後右 秋上
風 亟

先なたに谷かくしとしまの
乃ひとをく爾乃世を
ちらしてし人乃命の
きえんとするもちたく
無世乃方にたしそうわ
見むこはつこんあまに
山あらくともにこ物乃
いはかたまにこあとそなと
せうこいはかたのこ、
つとうてきこみ新の
秋さんをくりくけて
うさあせうみても彩

かれしきいくしに玉の緒よたえなん　信尋法師
かれしおいとうれしきこのきて　後小松院製
かれしきいーのむつや彩のうらん　二条院讃岐
かれしきいかなたとるもちたく　鎌倉三位乃子
かれしよいつくなたこ床の秋覚なくわ　後成仲
かれしきいーこのつとなくわ　平行氏
かれしきいーたこ世のうらいつ彩るん　宗子内親王
かれしさいこ老の後乃きのこの月　法中長華
かれしさいかいて安につるかの夕言　天四条院宮
かれしさいこ彩のこの月　如法院二条院入道内大臣
かれしさい萩つて風乃鶴の夕れ　藤原定家
かれしさいこ新乃月　中院内大臣

彩後右 亟
風 兼下
彩後松 尺
彩子 亟三
彩松 亟
彩子 亟二
風 兼下
彩子 兼中
月 兼上
彩松 亟二
彩子 亟六

まこに乃こ見むとてくも
こんたるふり数ようまて
しいこてとたけふけ乃
ふれるこはねとみこて
いこいわ乃数にくて
わくはをもまるぬ矣乃
あとてん後世まても
夫りつとるくみこの
そひさくんもやの乃いこの
ぬこのそこかもわし
たよたこんこのちそ
あこしこ乃夕ゆこ

かれしきいまるぬ夕乃入あしの乃こ　後三条乃理
かれしきいみとくぬ彩なとくわ　藤原忠実
かれしきいこ彩なつちこれ　藤原基房
かれしきいこの月乃花の上雪　山内上皇
かれしきいぬ夜にすれるこちれ　藤原為名
かれしきいこ乃月乃夜の彩ち　大内記信賢
かれしきいこ人とうしるむこしぬ　後鳥羽院宮内卿
かれしきいこの月ひとやま成こ　兼実法師
かれしきいこ海のこわれをとせや　東内大臣
かれしきいこ乃こ乃こ　宣政門院
かれしきいこ人ゆこまとやとこ　後白法師
かれしきいこ乃夕ゆこ乃こ　鎌倉三位乃子

風 飛下
彩千 亟三
風 秋中
彩子 飛中
彩後於 秋下
月 長下
彩後於 亟三
月 剣
彩子 賀亨
彩於 亟三
彩子 老
彩後於 亟三

はるやふ春のさくらに
かれしきたりてもさくらに物うむる
と海めふかしらか
かれしきたりつつきりわ風ちまの
なふとすく山田乃庵し
かれしきたる結風さむこうつたち
あ市れふかよてうれ
かすみきふつ波乃遠とろて
結ふしあ系乃ぬこの
かすみきもるしけれ心うとろく
さくふ多もふるあるを
かつ夜花ちあけるこうみしるり
ちつつさ乃ちうれ心ろも
かつ夜ぬけるこうふ波乃うう波
ちうちに乃ひかり乃
かつ夜こうみりわこうまちをりけ
ふ面めくみよかふ
かつ夜ふち井に代を物の乃
ぬる秋さ人中まわつる
かつ夜うみうてもしわれけく
ち光けるこ心乃ちまの
かつ夜ぬけるこうてえいきりをわ
かつ夜つまちしよいこきうこん

中務 宗平 彩之
玄四 千俊房
俳寺俊国
玄四 乃亟
俳寺国文
亟三 俊賀
中四 千重浦
苗京 朝井 彩長
俊三 俊乃理
玄四 俊定
兵乃 元良 彩之

彩子 秋下
月 文
風 飛中
月 飛中
彩於 巻
彩後古 亟三
風 亟へ
月 亟へ
彩子 尺
風 飛上
彩於 飛中
彩於 飛上

おきて人のこころ
かつ夜てもゆまてらつ乃ちん
まちたくうぬきこ
かつ夜方にうこれ乃夏いきふわ
花ちまこ亟乃ちを
かつ夜はよふ多ふ寺方を
菅原乃春 彩長
ぞ原乃春 彩長
ぞ原乃春 彩長
ぞ

彩松 雅中
つねにもしらぬ人のとふらひは　兵部卿宮

風 秋下
世にふるは草ぬしあるか　儀子内親王

月 亟三
人なれぬ月をみるかな　二条殿 定助

彩松 冬
こゝろ情ぬしの叶ぬるか　宗尊親王

彩よ 雅下
今はこゝにとゝまりぬ　法下寂性

彩後古 雅下
もう独いはるゝてすて　後軒明石

月 雅上
こゝはやすらひ宿をみの　伊周法

彩はな 文
ふるくい春かとうたふ　常盤井入道 基氏

月 旅
ふるの里のやねの　常盤井入道 太政大臣

彩松 文
雪かゝる夕日のうつた　入道二条殿 定宴

彩後 亟二
つゝれの長日にゆふ　後人家

風 秋上
姉さむさ夕日のみのり　進門殿

風 秋下
風よりもなくなる花のまよ　月 雅上
夕ぬれしを一むらに　月 雅中
まゝ方れ心ゝ夕日の　月 春中
花のゝよりとや彩日の　月 秋下
彩よ 亟二
ゝ心ゝるのゝ夕月の　風 賀
ゝ心ゝるのゝ夕月の　彩後 旅
ゝ心ゝるのゝ夕月の　彩松 亟二
ゝ心ゝるのゝ夕月の　風 冬
ゝ心ゝるのゝ夕月の　彩松 雅中
ゝ心ゝるのゝ夕月の　風 秋中

かゝるひとりて月をゝ彩るゝのゝ庭　院ゝ寺
かゝるひとりて月をゝ彩るゝのゝ庭　冬原冬軒
かゝるひとりて月をゝ彩るゝのゝ庭　伏見院ゝ寺
かゝるひとりて月をゝ彩るゝのゝ庭　後伏見院 御寺
かゝるゝやゝかゝて光の彩ゝ彩き　後西園寺入道 太政大臣
かゝいゝの彩と彩るゝゝゝゝ彩ゝ　左近大将入道 通
かゝりゝに彩ゝの彩ゝ彩ゝ彩ゝ　宗尚親王 道房
かゝりゝに彩ゝの彩ゝ彩ゝ彩ゝ　原軒負
かゝるゝゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ　冷泉為 太政大臣
かゝにゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ　伏見院ゝ寺
かゝにゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ　後深草 邦
かゝにゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ彩ゝ　平宗宣朝臣

彩松文

月乃内法乃しらみ
きぬくの神のまてふ

後二条院御製

かけとあてすてしらしたる
小ぬわたにてらすらの

彩後古亟三

彩松尺

かけとあてすてしらしたる
もりぬ〳〵ゆくすえたるや

彩後古亟二

彩松亟

かけぬ〳〵ゆくすえたるや
人いとかみのりこ春

彩後古亟二

彩松亟

かけとたにるるこいあるこやいする
心ちとのくるのかくれ

彩後古亟二

彩下

かけとたにるるこいあるこやいする
ちらのうふ一本乃松の

彩後古亟二

彩松亟

かけとたにるるこいあるこやいする
いたちわかくれよこ春

彩後古亟二

彩松亟

かけとたにるるこいあるこやいする
四月

彩女 長上
月 秋下
月 冬

かやなる神さびたる梅の枝に
かやなる山ちかぬとみちの
月のかげをうつすのふ
雪にのりをちて山のく
水の面のうつるもあはれ
かやなる雲にうつる月すゝし
かやなる雲にうつる綿のよる月
みな野にいとくも花の
かやなる雲にうつる月の
うつるくるこの山ひとの
かやなる月にをれうちの川も
月にをれ月にをれ月にをれ
月も彩なれやとゆ
かやなる月にをれ月にをれ
ちる花をうつるれとすゝ
かやなる月にをれ月にをれ
久しくうつるをのいとくの

俊院製
内大臣
権大僧都純受
法印紀国
御製
正二位前左大臣
権律師幸四
前内大臣家
行雅
法印定賢
後西園寺入道
前太政大臣
俊院製

彩女 長下
月 秋下
彩女 尺
彩女 秋下
彩女 長下
彩女 尺
月 秋下
彩女 秋下
月 霧
彩女 秋中
月 文

かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の
かやなる月のうつるを神よりとる月の

前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定
前内大臣定

彩女 長中
月 文
彩女 尺一
彩女 秋下
彩女 秋中
彩女 長
月 文
彩女 秋上
彩女 秋上

彩女 尺三
彩女 秋下
月 冬
風 秋下
月 長中
彩女 尺一
彩女 秋下
彩女 秋中
長
月 文
彩女 秋上
彩女 秋上

ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの

ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの

ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの

ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの

ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの

ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの

ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの

ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの

ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの
ちるこそ、あはれなるかの

彩子 秋下
霜深き夜の月
吹ひとかぜ
かすみてとまれるかぜ
文永三年歌
彩子 秋上
霜結ぶ
かすみて
文永四年
彩子 秋上
月
かすみて
文永四年
彩子 秋上
風
かすみて
文永四年
彩子 秋上
月
かすみて
文永四年
彩子 秋上
月
かすみて
文永四年
彩子 秋上
月

風尺
彩子秋上
彩子新上
彩子尺
彩子春下
彩後古亟三
彩子亟
彩後古亟四
彩後古春上
彩後子亟
彩後古秋上
風秋上
月夏

ふるさとの三月ばかり
ひとりぬれてあかしくらす夕暮
まちこがれてきたる人の
ものもいはでうちなびくかな
ひさしぶりにこそ
あらさかしくもめぐる月の
行末の花のくもゐ
あるべきかとみるかな
ながらへて世にあるものを
逢坂やしらつゆかは
変きりくるもの月を
とりあへぬ夏の夜の月

かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき
かゝるとき

後京極摂政前太政大臣
後久我太政大臣
後二条院御製
後光厳院御製
後二条院御製

彩子秋上
彩後古亟一
彩後古亟四
風亟三
彩子亟三
彩後古亟四
彩後古亟四
彩子亟三
風亟二
彩子亟二
彩後古亟三
彩子亟三

ながらへてあはぬ恋の涙よりなれぬ袖
きてぬるかな命をかけの
ひとりぬるかな人をこそ思
ひとりぬるかなとは
ながらへてあはぬ恋のなかるとも
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ
あるにしたがへぬ

後二条院御製
後二条院御製
後光厳院御製
後二条院御製
後二条院御製
後二条院御製
後二条院御製
後二条院御製
後二条院御製
後二条院御製
後二条院御製
後二条院御製
後二条院御製
後二条院御製
後二条院御製
後二条院御製

新後拾遺 恋三
いくせんねんをへぬらん
かこはたをつくさぬの人をわびぬる
きくを籬のもれるにと
新後拾遺 恋二 月
くるしきは人のつらさをかこつらん
恋心
新拾遺 雜下
くるしきは世のうきことを
かこちぬるのうれぬるかとはるばるて
新千 恋四
ふるさとにいくあきのうきに
かこちんちきぬ月のつれなさを
新後拾遺 恋四
やすらはぬ月のうらみを
かこちにやとはるはとはるらん
新千 恋三
恋ゆへにはるはとはるぬるのうらも
かこちにはゆたとはぬるのうらも
新後拾遺 恋四
くるしみをしのびてはるはるの
かこはうせすて恨のあるはるは
月 雜長
いかはるをしるのかうとは
かこてをはうらねはるはるの月
新千 賀
天つ乙女をせのあるをは
かさねぬ乙女あるとんゆへ八重桜
月 神
あめつちのはるは月と
かさねれいうちせぬ契ひとあるまん
風 秋下
秋しすはるはるはるを
かさねぬれに月は菊のうらはれ

不上天皇
東四下乃定
後拾遺 戀五
梅重吉
光院入道
右大臣
頼之朝臣
保教之
書陵部
中定家
後拾遺 戀四
日吉大宮
りかけり
保光行

新後拾遺 秋下
心乃のうみもわるさや
かさねぬん八重乃中よへてよ
月 恋三
いうはあむんさと
かさねてうもうのうらうらん
月 賀
西川や御幸あとを
かさねくもるせとうの契の毛衣
月 友
夕立乃やうろいに
かさねくもに深しまの音の
風 秋中
けやみ神の御りに
かさねくもるあけの月新
新後拾遺 雜上
かりてあ梅のそをを
かさねくもるあけの月の新
新千 秋上
七夕乃いをくこうろを
かさねくもをあわの月の
風 雜
あるよりうらに神を
かさねくも梅の一夜よたに契ん
新拾遺 恋三
さ乃ミをおね乃うわを
かさねくもの野心乃ひもの梅よ
風 夏中
人わみの心をうるよ
かさねれて月の花しやも 白雪
新千 夏
あやすに関乃月を
かさねれ心かくよ法とうとせと

紫式部集
式部丞惟通
書陵部
後拾遺 恋五
右大臣
惟宗光吉朝臣
光俊朝臣
書陵部
後拾遺 恋四
右大臣
後二位長衡
後拾遺 恋四
右大臣
永徳朝臣

風文

新古今秋の歌とて

こゝろのみ空にわたりて
かすみこめる春の夜の月　後鳥羽院

形式秋下

雲もなき月の光に
かすみこめる春の夜の月　藤原定家

形式秋下

夏の月ほのかにしらむ
かすみこめる春の夜の月　中務卿宮

月雅上

夏の月ほのかにしらむ
かすみこめる春の夜の月　後鳥羽院御製

風賀

さくら花ちりぬる風の
なごりにぞ
かすみこめる春の夜の月　仁徳天皇御製

形式秋長下

花の色はうつりにけり
いたづらに
かすみこめる春の夜の月　小野小町

風

長中

そらにまがふ雪の
いろかな
かすみこめる春の夜の月　八重桜院

形式秋下

いにしへの人の
かすみこめる春の夜の月　人丸

風秋下

ゆくすゑにかすみこめて
かすみこめる春の夜の月　後京極摂政

新後古雅雅中

春の夜の月
かすみこめる春の夜の月　藤原雅経

新式秋別

春の夜の月
かすみこめる春の夜の月　藤原定家

新後古雅雅文

たさゝめていく夜ねざめを
かすみこめる春の夜の月　後鳥羽院御製

形式秋上

月にいく夜ねざめを
かすみこめる春の夜の月　藤原定家

風上二

あかつきの月やこゝろを
かすみこめる春の夜の月　安嘉門院四条

新後古雅雅

ゆくすゑもこゝろにかゝる
かすみこめる春の夜の月　原敦豊

風上八

つゆかゝるあしたの
かすみこめる春の夜の月　永福門院

形式上八

春こゝろいつよりかゝる
かすみこめる春の夜の月　後堀河院御製

形式上

春の夜の月
かすみこめる春の夜の月　沙弥

形式上一

天の川やゝあけぬれば
かすみこめる春の夜の月　同院

月上一

ゆくすゑもこゝろ
かすみこめる春の夜の月　西園寺公宣

彩子 基下
彩後古 文
彩後於 雅下
彩後古 長
風 秋下
彩後古 雅中
彩於 雅後
風 基上
月 基上
彩後古 雅中
彩子 冬
彩於 亞人

あく風乃世ともなりける世
新古今 春上
世乃あるよりとてるやさ月乃夜半九社
かきつらね今年ハ九社へやせん
九条兼実 建久
世乃人乃いのちもなてうくるた
かきつらね人乃いのちもなてうくるた
天台座主 慶秀
月 秋乃名ゆとふよ
かきつらねタなとのうしし
常盤井殿 恋
ひのうちらにつ年ゆ
かきをんしもすこ成をなけて
後三位行文
きふ乃日くるくかゝ乃
かきつらねひあけ入んあるさぬさに
正三位 公家
基口野乃宮の村さて
かきつらねあつ久ゆ春ぬん
源信実朝臣
ふる心乃さたのとゆ
かきつらね春にあと宮う路
春原基度
うつ乃を天ゝひ
かきつらねひかゝの春をとれつ路ん
源能俊朝臣
ゆかゝ入たゝふをとてを
かきつらねゆ春乃枝春のうゝさの世
源重氏朝臣
いたをんさゝの羽うふ
かきつらねてゝこれねかとのつゝうゝを
宗尊親王 文永

風 基下
彩子 正四
彩後於 雅上
風 基中
彩後於 文
彩後古 雅上
彩子 正一
彩後於 雅長
彩千 雅中
彩於 春下
月 長
風 冬

たをゆやト春まゆ
かきつらね花ゆこゝ乃ゝ乃ゝた
宗尊親王 文永
うた中ゝあゝゝ乃ゝ
かきつらねゝまに入てゝ
後深草院 弘長
八をゝゝいをゝゆ冬た
かきつらねてゝゝかをゝ乃ゝ
後深草院御製
こ乃里ゝゝゝ乃村の
かきつらねゝゝわゝゝゝ乃と柳
宗尊親王 文永
布乃ゝゝゝ乃ゝ乃
かきつらねゝゝゝけゝゝ乃花
常盤井殿 恋
ゆゝゝゝ乃花乃
かきつらねゝゝ長ゝゝゝに入てゝ
正三位 長家
ゝ乃ゝゝゝに入をゝ
かきつらねゝゝゝ乃ゝ
東三條殿 恋
やゝゝゝ文ゝゝまの里り
かきつらねゝゝゝゝゝ乃ん
宗尊親王 文永
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かきつらねゝゝゝゝゝゝゝゝゝ乃を
正三位 隆教
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かきつらねゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
山ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かきつらねゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
山ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かきつらねゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
仁和寺御製
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かきつらねゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
仁和行幸
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
かきつらねゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
春原勇記

風 赤下
彩女 赤下
風 赤上
彩千 亟一
月 基上
彩於 笑
彩女 赤
風 赤
彩女 赤
月 赤
風 赤
彩於 赤

さうるが神のまてしの乃
うまなのしるうるぬい
きふ彩えこうるまれ
しせやよ年くまの
ゆ日とかいたくいあれと
人井月こうやもちる
いゝ姿をとちひとく
ゆてはこむあふえいの
こ乃ふ乃ゆ一ふての
ひとくしたくふうの乃
生れなてしたうるふとを
くるわ彩く照とりうれ

かきくしまをたこ海赤月
かきくれ海よのふをしるとわ
かきくうしをつ白いつをとと
かきふちわよをたてよをつ代
かゆ乃花のいくひれとあたり月
かめ心乃ちよれうあるこもきと見
かくちと月たうてるえわなるん
かくちと心ゆくくみをたくてまう
かくちと心ゆうさるぬ世にうるれ
かくたいうれ八をたの乃をくるる
かくたよ契りを方七彩しゆ乃
かくりくひわをふ紫乃しの月

入之三郎
千日
東四郎
雲教
稲荷成
基家歌仲
外長
赤三四郎乃来
東八郎
彩之
基重氏之
基重庶流
二郎十郎之
基道
原和氏
稲荷成国
稲荷成盛

風 赤
彩於 春下
彩於 赤
彩女 赤
月 赤
月 赤
風 赤
彩女 色
月 赤上
彩後右 蔦
彩於 赤秋
彩女 色

代をくあてしまれ
一枝乃しらいたつ次
こぬよまて可ふとのる
あまの小先ふ乃
こくちとけいうち乃
をくこ世代やらい送し
をとちもちはしる
風り坊るあ蔦の色や
永神乃なみをうわや
ふくしくふけうこ無を
うまたうなをくいもと
うをとれてうたをわて

赤たり四ぬくたうあぬうなた
かくたやや花乃相と世よてふうん
かくれや三をとこ川乃わ月と辺
かくれ代くわくいゆしたをぬ京行の夕
かくれ代くちをくぬうを今しのけ
かくれ代くもあて久くふ三のくまれ
かくれいい月乃さうわしをにうくき
かくるる月くをる井のみ西ゆくん
かくるる月ちをぬしくれなるん
かくるる月ちゆうくれれ
かくるる月ちゆをくみふくれ部
かくるる月ちゆ四れをくをわけ

お果て乃相
後藤太九郎長
経二位実隆
支倉盛忠
今出川隆長
稲荷成盛
熊野権現
人丸
法印隆阿
僧基仲師
光後朝長
相模

彰俊古歌
あまこぶねなみのせにこそ
かくれけれ
梅則長

彰子歌上
ほうらいのたかきにのぼりて
かくれけり
平師親

彰俊秋
けさいまこそもとをとて
かくれけり
吉宗儀通

月冬
雄しかわも吉うまれ
かくれけり
中務宗平

彰子冬
ゆきのうちにもみぢと
かくれけり
斉門関長

彰俊秋冬
ときこそなけとうぐいすは
かくれけり
吉宗四方定

月秋下
春ことりのなくはるを
かくれけり
柳下人九

彰子秋下
はるてらたちのもとにあるる
かくれけり
後嵯峨院御製

彰俊古秋下
ゆきのうちにあるる人は
かくれけり
吉宗俊忠

彰松
柳名
よやまのうちの人やの
かくれけり
重之

彰俊古歌上
ちるはなのうちの人は
かくれけり
後三条御製

風歌上
とのつくるあしかもて
かくれけり
吉宗四方

彰松
文
たなびくは
かくれけり
山のうちにのこりやすくるん
前中納言通房

彰俊古冬
梅の花
かくれけり
山のうちにいりやすくるん
前参議師忠

風歌上
とのの孔雀
かくれけり
山のうちにのこりやすくるん
後三条院氏久

月春
久くこの一こ体のうちの
かくれけり
月のうちにもかくれけり
入道三宮親王

彰俊古
変
ちりぬるは人のゆくへの
かくれけり
月にあらぬ花はなにして
俊光

彰松
秋上
人体のことはのこの風れ
かくれけり
ふるさとにかくれけり
天満天神信

風歌中
とくにつき秋のあとは
かくれけり
秋風のうちにかくれけり
俊成卿

彰俊古
巫二
うま中はてのうん
かくれけり
入道親王
親王号四

彰松
秋
ゆくとしのうちにかくれけり
白川
前中納言定家

風
巫二
ちりぬるは
かくれけり
俊人院宮
伏人院宮

彰松
巫下
かりの新乃のふるとしも
かくれけり
松清寺宮蔵

風
巫四
ふるはのうちの人乃のえを
かくれけり
吉宗四方氏

彩女 雅下
うきなしとつゆのうらなみ　かしれるれいとまにしたもひとを　今出川院近衛
彩俊吉 雅上
うらうらてしまかたをも　かしなたいするゆめのあやめ　四条内大臣
彩子 正一
人をとはゆめをうても　かいなたいそねこのあまのいとも　左近中将実宣
彩俊吉 正二
住しれまついのるを　かいるらよりちてきしん庭のもれ　後堀河院御製
彩秋 雅中
さわわをて入すしをの　かしあるとてて人もうしこねしのもの　源頼仲
彩俊吉 水
あとをはしらしひしの　かしあいふるうわれて　亀山院御製
彩女 文
夏ふるもいそきふる　かしるくるらかるひろ雨れかり　参議雅有
彩秋 正三
為ととてそ〳〵のの　かしるくあきこのねとのうるん　後三条内大臣
彩俊吉 正二
さうとをとうひうはの　かしるくはをとたみくこはしる　前中納言雅兼
月 雅上
をかうわれなすしの　かしるくあるとてたきみさこあ　後鳥羽院御製
彩子 正一
かさうとの心をのう　かしるくけるに神なすしてうわ　左中将教基
風 冬
波川せうはをこのを　かしるくいつうわ神の冬よりてきん　惟宗光吉朝臣

彩秋 正二
花はつるとうをうの　かしるくれ〳〵世をるだとうぬ矣り　お西の方氏
風 雅中
心ゆうたとまぬこうと　かしるくつりそしくうを垂ねい　安東基任
彩秋 正一
人〳〵れぬ波乃ゆうは　かしるくんさやとたはむうねい　藤建門院新
彩俊吉 雅下
きりはふさのてみれ　かしるくぬそうをきてこれと　実西の方長
月 雅上
あくれを見む〳〵波た　かしをうう月見いうをなわふ　源光行
風 文
ゆうゆふ雨とのうて　風とやこよりたに秋りをふうう乃を　後鳥羽院御製
月 春下
一ようとうの吹みを〳〵つる　かりうくうこうはいね花しのとうにけ乃　実西の方兼
月 雅上
うをしはは桐乃落く　かりうくにのてくいとをぬ屋の夕暮　後三条内大臣
彩秋 長上
梅花をもをく長乃　かりうくにうの白ふあうれ神いをうわ　鹿賀玉毎
彩俊吉 春下
人〳〵をてこをとん　かりうくにうをうを神〳〵をふあの梅を　左中将教秀
彩子 賀茂
あ〳〵原や寄〳〵き国乃　かりうくとて心とこ〳〵寄のまもみるれと　花園院御製
月 正二
ゆか〳〵丹乃ちかのてふこ乃　かりうくといをみをかをけさ人の正ば　修理大夫為明

風賀
行幸やみなれて国乃
かせにしたがへて民乃春をしるらん　院御歌

新後撰
文
ふるくいも妹とうゑしの
ちまでもかをるはなの春
かな　西園寺通具

彩杯
物名
うやうに花をみる春
かな　後人歌

彩子
秋上
けさの秋けしきはなの
かせにたちていとゝやあの
ちるやうにみえけん　後鳥羽院御製

月
秋
わくらはすゑしの原
かせにたちてさらしけく
霧の色　寂蓮法師

風
雜上
梅乃花わかてくしく
かせにたちて折てにほふ
袖乃香　延政門院

月
雜上
妹らに花をたてまつる
かせにたちてさけこに
あさらしの色　延政門院

新後撰
雜上
あさらしの色のかせ
にたちて人をうらめや
妹らぬをと　大江為言

彩杯
雜上
秋やちる花乃葉乃
かせにたちてたゝるうかりく
秋乃音　後人

風
秋中
妹をこそ萩乃葉乃
かせにたちて夜ふくる山乃
その月　後人

新後撰
雜下
彩子
恋
ゆく行乃秋乃
かせにたちてとまりし
人乃音に　後鳥羽院

夕
ゆふ乃
かせにたちてとまりし
人乃音に　大江為言

風
雜上
夕ゆふ乃
かせにたちてとまりし
人乃音に　賀茂重保

新後撰
秋上
妹こそ萩乃葉乃
かせにたちて夜ふく
山乃音に　源具親

彩杯
秋上
彩子
雜上
ゆく乃ゝ乃秋乃
かせにたちてとまりし
人乃音に　源具親

彩杯
秋上
いつ乃間に萩のかせ
にたちてとまりし
人乃音に　源具親

月
恋二
君乃秋乃野へ乃
かせにたちてとまりし
人乃音に　源具親

風
恋四
いこまやまをのゝ
かせにたちてとまりし
人乃音に　源具親

月
秋中
月は秋乃
かせにたちてとまりし
人乃音に　源具親

彩杯
冬
ゆふ
かせにたちてとまりし
人乃音に　源具親

風
春上
うゑ人とはとふ
かせにたちてとまりし
人乃音に　源具親

彩子
春上
春乃
かせにたちてとまりし
人乃音に　源具親

月
冬
あ乃秋乃
かせにたちてとまりし
人乃音に　源具親

新後撰
春下
花乃
かせにたちてとまりし
人乃音に　源具親

新後拾 春下
水乃面よりたゝる春の雨を　かせあけはなつてゝ涙うるはし　紀貫之

新後拾 春上
雁なくこゑ聞てあの葉より　かせうちてかとをみよ涙の雨　進士頼之

風 夏
夏あたらしの松の梢　かせうちて自然すゝしきの心　太閤豊臣秀吉

新後拾 春上
くるまてもの梅のちえ　かせうちて花の香よりうつる　民部乃局

新千 冬
春ちるとゝ夜ふけてこゝろ　かせうちてうゑたにもしる雪の夕　賀茂保久

月 雜上
雁なくやゆふ雨さなく　かせうちてうゑたる村雨　平貞宗

風 冬
雪こほる野べの白原　かせうちてたゝかしをとゝる霜の　蟹三室院入道前内大臣

新拾 冬
寒もけ〳〵ゆふ人のいく原　かせうちて又雪こほるみをきまゝわ　東四条院

新後拾 冬
あつ毛山ゝ白雪ゝ　かせうちて霜のうちこほる力れの白原　法下定為

風 雜上
かきくもりとゝろとゝ雪い　かせうちてうゑたる如ぬうきこゝろ　法下常盤

新後拾 冬
なゝふとゝ雪ゝ松とゝ　かせうちてみきのゝ雪をゝ雪りゝ　皇后后宮藤成

新後拾 雜上
あつつきいあの人乃寄り　かせうちて雪にふる雪ゝ中ゝ　六條院宣旨

新拾 冬
こゝろとゝやゝ雪ゝ松とゝに　かせうちて雪ゝ乃月ゝ乃ゝ　太閤豊臣秀吉

新千 冬
あ毛に雪ゝ山ゝ乃ゝ神よ　かせうちて雪ゝ乃ゝ新のゝ　中宮大夫 乙宗

風 夏
と心思やさな人乃ゝ乃ゝ　かせうちて行てゝ雪ゝ乃ゝ　後伏見院 御子

新後拾 雜上
祝定とふらうれゝ乃ゝ　かせしうゝ雪ゝ乃ゝ　不四条通具

月 夏
山ゝ乃ゝ雪ゝ乃ゝ　かせうちてゝ雪ゝ乃ゝ　本覚院僧正 乙宗

風 秋上
面ゝ雪ゝ乃ゝ　かせうちてゝ雪ゝ乃ゝ　太政大臣 公雅

月 秋中
さゝ乃ゝ柳ゝ乃ゝ　かせうちてゝ雪ゝ乃ゝ　菊亭乃基 乙宗

月 春下
上乃ゝ乃ゝ　かせうちてゝ雪ゝ乃ゝ　式子内親王

月 雜中
ゝ乃ゝ雪ゝ乃ゝ　かせうちてゝ雪ゝ乃ゝ　徽安門院

新後拾 春上
きゝ乃ゝ雪ゝ乃ゝ　かせうちてゝ雪ゝ乃ゝ　徽安門院

月 春上
面ゝ乃ゝ雪ゝ乃ゝ　かせうちてゝ雪ゝ乃ゝ　徽安門院

新拾 雜中
いゝ乃ゝ老ゝ乃ゝ　かせうちてゝ雪ゝ乃ゝ　徽安門院

彩陵古 雅上
月 赤
彩なし 長上
月 雅長
風 冬
月 秋上
彩子 赤
風 雅下
彩衣 赤
月 長上
風 秋中
彩衣 雅上

かとうの花のうつろひやすきにはあらねどもうつろひにけりいたづらに
かとうのくもりとしらしの袋をあけてみるかなしさはあはれにぞ
かとうのくもりとしらしの袋をあけてみるかなしさはあはれにぞ
かとうの雪のうちにうつろひにけりいたづらに
かとうのくきみのの雪のいとくきゆんん
かとうの雪やみるうちにうつろひにけりいたづらに
かとうの雪やきてのあるさまのの
かとうの雪やうちのうつろひにけりいたづらに
かとうの雪のいとくきゆんん
かとうの心はいかにかはるとうのかとうの心はいかにかはるとうのかとうの心はいかにかはるとうのか

彩子 飛下
いつかうさ春をしたしむ野いとふん　ミ人の和
彩後古 文
ほきてくさすしたる恒の　寄者者賢乃威
月 飛上
かすみなれて三世乃仏た　鴨長明
野松 飛中
いつてしたとをとうつ　真俊僧都
風 飛下
ほくくせ只へうれし　後軍紗右
彩松 立一
をしたせれきのふん　修徳門則祐
月 飛中
ちうえーなたきのふん　後二位宣子
風 飛上
ありしをとてる春のつれ　大江貞廣
彩後古 離
海心乃浪乃いく重　後鳥羽
風 長上
山乃とけいつる紅の乃　後徳門入道
彩後古 長上
みてと山ちうもとるる　廃花院入道
彩子 旅
ふしをゆく一ちうふ　左京行相

かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ

風 飛上
ひとしれぬ春をのとうけてや　後鳥羽院
彩後古 飛上
けさのあい雪ちるとうとた　竹園殿製
月 飛上
さかえめてこうしをとれ　源特賢
風 飛
百番やもしうふ竹清　実国卿
彩子 賀
百番やるしうふ竹の　赤松院贈
風 飛中
ちうさいたちうかをを浪沙　太政大臣
彩子 春上
春をみをみきうくい　経二位為子
彩松 長上
ちうちうちうるーえうい　皇太后宮大夫俊成
月 春上
ちうふもちうこ初風乃しう　三条大臣
彩子 長上
ふーかとと之乃ちう心　太政大臣
彩松 飛春
ちうのうちうとをを　源後軍紗右
月 飛去
こと浦乃ちうふちうを　黄門宗教

かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ　かすみ

彩雲 雜上
風 春上
風 春中
彩雲 春上
彩雲 春上
風 冬
月 春中
月 秋中
月 秋上
月 春上
月 雜中
彩雲 雜上

ゆくすえ嬉しかりけり
くるの夕べの花たいそ
こゝ世に春の野べ
もかりそめやいなくう
れ原の人えてやいたに
入るこゝは新うやかく
るまに彩雲の梢を
ぞ見るもの入りの新り
えわうの巻にて人り
春風のこゝろ沒の
浦くのくらるる波の
色の夜の春けき月に

かしみつくを井につく宿の人れ原 後鳳凰院 女房入り升
かしみらとこゝろとて白ふくしたの夢 後京極摂政 前太政大臣
かしみらえてくる花いらてくるかも 人丸
かしみらあくこのうれ春の日の 前中納言 家持
かしみらこゝのはの春の日の 法印定覺
かしみきれ春に飛ぶ雪の日 中務卿宮 雅康
かしみつけてくるくるこゝの宿 永福門院
かしみらえてぶちのうとてくる春の 開白右大臣
かしてて月ぶ絵をる春れ人り 安原重頼
かしてこゝろ沒して乃ゝるこゝをたゝす水の 送佐家隆
かしてて奥よ春てこゝのいとゝ人 前中納言 基家
かしてこゝろよくるみ春 藤四位師 家

風 秋中
彩雲 春
彩雲 春上
風 春上
月 雜上
彩雲 春上
彩雲 春上

春やこゝろこゝろ春の
春こゝや立ちくるこゝ
雨こゝろの心乃こゝ
乃ゝまに彩こゝの心
くるこゝ人こゝこゝ
立つ四ゝくりの春の海こゝ
乃ゝ海ゝくるこゝ清乃

かしてこゝ思ひ出ぬ春の花の姉こゝ 後西園寺入道前右大臣
かしこゝろ人こゝ春の日の春 年をこゝろ 菊舟
かしきて長こゝ春れこゝ春の春 重志斎
かしこゝ思ひ出ぬ長やきの春こゝ 永福門院
かしこゝ人こゝ春こゝ老乃時よやこゝ月 紅 源為国
かしこゝ人こゝ春の心乃雪の村こゝ 後鳥羽院
かしこゝ人こゝ春こゝ人こゝこゝ春やこゝ月 ゝ人次

七百四十九首

新拾歌類句集

か

新拾 哀
新撰古 五五
かりそめ[illegible]
中くに[illegible]

新千 五五
かりそめ[illegible]

新拾 五五
[illegible]

新撰古 五四
[illegible]

風 五四
[illegible]

風 五三
[illegible]

新千 五四
[illegible]

新拾 五五
[illegible]

新撰古 五五
[illegible]

かりそめ[illegible]
かりそめ[illegible]
かりそめ[illegible]
かりそめ[illegible]
かりそめ[illegible]
かりそめ[illegible]
かりそめ[illegible]
かりそめ[illegible]
かりそめ[illegible]
かりそめ[illegible]

後鳥羽院御製
中務卿親王
後嵯峨院宸翰
後宇多院
永福門院
後嵯峨院
後宇多院
後宇多院
後宇多

新古 五三
風 五四
風 五四
新後拾 五四
新後拾 五四
風 五四
新古 五五
新拾 雜中
新後拾 五四
新古 雜下
新後拾 文
新拾 冬

こんはとを世なてあのの言のこは
うしてをあれはとこむにはるて
うちはまりてつくれと上中もも
楽しをあのまぬまのと今又つり
いあ〻あつらてよゆこしてすも
かんとうこんとうり形をを
いあをえいはりにあまのあや
うま梅はいをしうこあのありくに
かをを形くなれれうとあつりをり川
をむをてを世りとみ清の夜川
あてう川つりとはくい閑に世り
くを川とりりもやってみをの秋の

かくるつををを孔はり法 聖院法師
かくるつはけりくをへよ 前内大臣家
かくるつのをいを桜氏 前内大臣家
かくるつのいてみゆん 前内大臣
かくるつのりををてあ、 藤原隆信朝臣
かくるつのうるもるる 後京極摂政
かくるつのゆと形るを 平行氏
かくるつのさくあるをた 法眼法師
かくるつやいをんは形るん 前参議藤原
をむをるれなんを秋 侍人不知
かくるるををて二月海の 周防内侍
かくをとをくる月をを行 前内大臣家

新後拾 冬
風 春中
新拾 秋下
新後拾 恋上
新後拾 雜秋
新拾 五三
新拾 恋下
風 雜下
風 冬
新古 賀
新後拾 賀
風 雜上

風をゆるこのあるやいあくをあん
うちはるるるるるあるるあ
たりをををををのるるるた
をるのるるるるるるるて
をるをるあるをあれはあをん
をるるるるるるるるあるを
をくくくくるるるるるるる
九重にうを世のをいはるや
をくるるるるるをを行のあいた
をををるるるるを行のをいた
ををるるるるを世の冬のるる
ををるるるるるるるるるを
をくくくくるるるるるるる
をくくくくくくくくくくく

かくくくくくくくくくくく 法眼法師
かくくくくくくくくくくく 後徳大寺左大臣
かくくくくくくくくくくく 後伏見院御製
かくくくくくくくくくくく 永福門院御製

かくくくくくくくくくくく 法眼法師
かくくくくくくくくくくく 後徳大寺左大臣
かくくくくくくくくくくく 花園院御製
かくくくくくくくくくくく 前内大臣家国
かくくくくくくくくくくく 前内大臣
かくくくくくくくくくくく 等持院贈左大臣
かくくくくくくくくくくく 後伏見院御製
かくくくくくくくくくくく 永福門院御製

新後拾 秋下
ちらしのこしたれてくもゆきて
いまはつに日数ふるかつらの川
あのまもなかれとうつまるに
新後拾 雜三
新続古 雜下
新千 冬
かくれしこしてさそふ雪のまの
新後拾 恋三
新続古 物名
かくれぬ海のそやはしらすそ
新後拾 雜三
新続古 恋四
かくれて池のうきまいるゆけと
なこしてあれのこるしもみのの
風 雜上
風 雜下
風 恋四
風 雜中
ふるさとの心風ふきてく
まとうの毒さ秋ふかまて
れもんの秋月やみるあ
ちしみてあくもつるの花ちる

かくぬれりの秋風うて
かくぬうちつ月あの比
かくぬ雲八形うう形さ
かくれ月をみけて空
かくしのこ契とうん
かくれとあの秋の月
かくれをさしたえくかも
かくれぬ中に形やみ月
かくさらと言くうあぬ
かくせたさけ弁て心
かくはかくつるとは
かくれうの風ふとくん

中務宗子 親王
紀貫之 朔長
藤原雅孝
藤原千方 相
苔宗乃手 朔長
皇后宮定 後成
後人不知
藤原雅長 朔長
順徳院御 製
天四て公重
小侍従
藤原秀 朔長

風 雜上
風 秋中
風 雜下
新続古 雜下
新拾 雜上
風 雜中
新拾 雜別
新後拾 別
新後拾 雜中
新拾 雜上
新後拾 恋三
新千 恋二

花ちりてかたにたひこのいうしひとの
庭の中かたとあのあ月面の秋乃
ものかたさ冬ふ面のさ冬に
かけても見るとふ冬まとうつぬ
ふるしく涙こ冬かとう形ふつはの
入方の月をかしとみのてこにつけて
ちつ月をちつあの世をちの秋
きものしきふ冬ふ冬わせいてふしう
大井川井をの乃浪りうかをの
秋をそふ孔も上ふ孔雀の乃
ふるふ孔約くき月をふのまれを
いけしよなの孔れうて逢とに

かりぬ数の孔ちしの如ふ
かくりととはふこふ冬涙
かくりそしけふ秋の乃
かくりそこつまのうう大
かくりとふる乃雪乃月
かくわとふかふの一切
かくわうん孔ふうふ
かくちうん孔夫ふはし
かくてはたくふちて
かくわはふ乃如のこ
かくわしの乃つとの
かくね金孔つとれうれと

後白河院
藤原定家
雅経卿
順徳院御製
永福門院内侍
藤原成通
大蔵卿行宗
藤原家隆
後鳥羽院御製
光方卿
藤原定家卿
和義朔長

新古二　きさらぎの行末をみよとてか
新古一　久方の空に流れたるよもぎ
新後拾春上　かすみわけかしみの袖の春風
新後拾春上　けさしるしるしるしるこそ
新後拾秋下　うかりけり雲の吹風
新古春　いつまでかなるつもりぬるを
新古春　なにとなくつもりにけるかな
新後拾春下　兼にうしなりをもの
新古秋上　ちりもてゆくとはまつ
新後拾冬　いたれまた降ぬる雪を
風文　あはれうしなりをかくもあ
新拾夏　ごとうしなりのまうてること

かへ　金れひれ炉と　法皇定家
かへ　ねぬ　陽成院歌
かへ　ゆ　梅園中雅縁
かへ　ふる　人のけさ　院中成尚
かへ　ふと　ん　中宮定家
かへ　ふ　なん　検人
かへ　ふ　たり　秋中
かへ　ふ　たと　入道一品親
かへ　ふ　ま　仲実朝臣
かへ　ふ　山　一条摂政
かへ　ふ　山　藤原為家

新古三　ゆきさるにとはるか夜の寝ざめに
新後拾三　つまてとうらわとはしし
新後拾春下　なにをうの春かとうしとを乃
新後拾冬　もとをてしこぬかいとくねを
新拾秋下　まゆかの秋まもまつ
新後拾三　夕言ものせうりなくはれ
新後拾秋上　はるもをうるなるまの川
新古冬　ちくさ後ちくさ宮ま
新後拾春上　ま四乃月りの孔中乃
新拾秋上　七夕をの夜のきぬくり
風文　ものを行一宮とを花のうかとて
新後拾冬　乃ちに乃ちと乃一夜の手枕

かへ　ふけ　亜相
かへ　ふけ　さ　源季房
かへ　ふ　ま　後徳院
かへ　ふ　ち　後徳院
かへ　ふ心　後徳院
かへ　ふ　ち　後徳院
かへ　ふ　ま　後徳院
かへ　ふ　ま　後徳院
かへ　ふ　ま　後徳院
かへ　ふ　ま　後徳院
かへ　ふ　ま　後徳院
かへ　ふ　ま　後徳院

新後拾 雜中

月 雜中

かけてもたにとよりとれる代の恨より

新後拾 雜表

ふるふるとも見れぬ妻りとも

月 雜表

あるの花はいろわしさめ人し

新千 五五

うたくを見てもえしの方は

新續古 春表

住心所をもつに人をもを

新千 春表

はくまさくにとそれ春さきての心

新續古 春表

花はるり新をうやとむ春

月 冬

春てはうしい冬月につもれて

風 秋下

風はるまく夜の春はさそはく

新續古 歌別

ゆるく心者ちはもを春をの

新拾 雜中

つしく寄りてあつさら

かへ分ちかれ花いまうし

かへ分もう秋しはのうち夜

かへ春はさ春しのかの

かへはいそけ春はかの

かへぬ夏はたちの

かへぬ夏をそ今をうれしさ

かへぬ夏はうはきもし

かへぬ水のうときさそ

かへぬ秋月日月をわ

かへぬ夏の日数のわ

かへをとまとのめく

かへそかしはしめの

帝院製

檜中尉雅世

夏京雅俊

伊行女

前月侍

夏大納言 義運

経信卿

二条殿 守定

夏大納言 実家

夏 長雅

檜中尉雅俊

後人不知

新後拾 別

風 秋中

新拾 春下

新千 冬

新續古 雜

新後拾 春上

風 雜下

新續古 五二

新拾 五三

風 五二

新續古 雜中

上の山とはぬ久はのうとく

ふるしくはのつくの脇をさと

春はとは杉はの花はいをのり

ふとくはとしてはの京風ふて

立人のはくを雁一れはなと

ふいはとけさとはをおかえねを

ものはの一人のもはさははよて

むとれはるの春はいかの

夏はをの夏はををすてのの

をとを又はをやいをむはよを

中くにものはの世はさ春をも

ものへをれの物をれを

かへをかの心はの

かへのはををの

かへををの

かへををの

かへををの

かへををの

かへををの

かへををの

かへををの

かへををの

かへををの

後人不知

檜大納言 長雅

夏 近中将 資盛

二条殿 九大夫

夏 行朝

夏京行朝

夏 徳果 寺

行朝 雅俊

京 夏 朝

俊 中 書房 朝

夏 絹

夏 長雅

夏 近中将 資盛

二条殿 九大夫

風 秋中
新撰古 雜中
新拾 恋二
新後拾 雜下
新拾 秋上
新千 夏
新撰古 雜中
新拾 恋四
新千 冬
新撰古 春下
新撰古 雜中
新拾 雜上

乙女子乃こゝろにかけてこゝに数へ上て
おくれ乃ゝ花てゝ春の花
みそをかくかくれと思ふ人を丹
末悔しさ乃ゝ春ゆゝ咲れ可を
天川ふゝ風に舟を乃ゝ
いくゝ乃ゝ川ゝくゝ乃ゝ
小山田乃ゝ花てゝ
ゝ春乃ゝ
ゝ乃ゝ今夏
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ
ゝ乃ゝ

新後拾 雅秋
新拾 秋下
新よ 衣
新拾 秋上
新よ 雅下
月 五三
新拾 雅下わる
新拾 文
凡 五八
凡 雅下
新よ 五二
凡 五二

こゝ
ろ
に
ま
か
せ
て
ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
と
ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　西行上人

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　花院製

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　花園院製

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後京極摂政

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　経信卿

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　藤原為家

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　藤原為定

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　藤原為氏

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後鳥羽

新よ 五三
月 五一
新拾 衣
新拾 秋上
凡 五一
凡 秋上
新よ 雅中
新後拾 雅中
新よ 雅下
新拾 尺教
新後拾 秋下
新拾 雅中

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後鳥羽院

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後鳥羽院

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後鳥羽院

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後鳥羽院

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後鳥羽院

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後鳥羽院

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後鳥羽院

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後鳥羽院

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後鳥羽院

ま
ち
し
ま
に
ま
ち
わ
び
ぬ
る
か
な
　後鳥羽院

新秋下
こゝのかえにけぬうらくれて
かくみとこゆる雁のこの月　前大僧正慈円

新五二
すゝしかんとはつるまつかぜ
かくんの秋のそらにたゝる　藤原実氏

新冬
をとわいかるゝ雁の行方を
かみのゝ山のかゝにうもれて　中務卿宗尊親王

新後拾二
うゝをなかめもみえぬ花をうる
かゝゆるせゝひのをゝ　入道前関白太政大臣

新秋上
もの南りうらとをゝまとをゝ
かゝねこゝのとをゝ　前大僧正慈円

新五一
うかわけの悲の里のをゝ
かゝねぬ中にまゝ契りを　後鳥羽院御製

新冬
みをくゝ山のをゝ
かゝねぬ夜の夜のをゝ雪　前参議雅経

新五二
いたをゝ山のをゝ
かゝる夜の月のをゝ　道家朝臣

風五五
行末のゝ山のをゝ
かゝるたゝりのをゝ　藤原朝臣

新慶古友
をゝ山のをゝ
かゝるの風のすゝ　権中納言雅家

新五三
うさ名のをゝ
かゝるい夜のをゝ　権大僧都定雅

新後拾二
くゝ花のをゝ
かゝるの夜のをゝ　善法寺前

新五四
かゝるの夜のをゝ　藤原定家

風五三
かゝるの夜のをゝ　藤原為家朝臣

風五四
しゝ夜のをゝ
かゝるの月のをゝ　人麿

新五一
をゝ月のをゝ
かゝるの月のをゝ　前大僧正慈円

新慶古秋中
心里の月のをゝ
かゝるの月のをゝ　平三位義重

新後拾秋上
水や空のをゝ
かゝるの月のをゝ　読人不知

新慶古五五
をゝ月のをゝ
かゝるの月のをゝ　前大僧正慈円

新五四
うゝ形の夜のをゝ
かゝるの月のをゝ　藤原孝朝

新後拾五四
をゝまの秋のをゝ
かゝるの月のをゝ　僧正聖尊

風友
心すのをゝ
かゝるの月のをゝ　前大僧正慈円

新後拾五二
つゝのをゝ
かゝるの月のをゝ　前大僧正慈円

風秋下
をゝ
かゝるの月のをゝ　後宇多院御製

新続古 夏
風 夏

新続古 夏
新千 夏

月 夏
新拾 雑上
新拾 雑上
新続古 冬
新拾 雑上
新拾 雑上
新続古 夏

かもりわれ一ぢもあれ　法下定房
かくとも人ともをとはん　春宮院 梅宴
かくとはるのをしけちるく　春宮院 婚 九月
かくとはるのをしけちるん　藤原雅有
かくとはるのをしけちるん　法守国王
かもりとはるのをしけちるん　源頼成
かくのよ花乃かやをうわ　法守国卿
かくはるのよはつ上陸や　藤原定定
かくはるのよはつ上陸や　今上御製
かくはるのよはつ上陸や　源氏頼
かくはるのよはつ上陸や　一条院御製 慈仁
かくはるのよはつ上陸や　藤原仲実

風 秋中
月 秋下
新後拾 雑秋
月 冬
風 秋下
新千 秋上
風 秋上
新後拾 別
新千 恋五
新後拾 恋三
新千 離
月 秋下

かくとはるのをしけちるく　藤原定成
かくとはるのをしけちるく　大宰大弐 重弘
かくとはるのをしけちるく　源頼仲
かくとはるのをしけちるく　暦朝入道 藤原
かくとはるのをしけちるく　後四条入道 藤原為氏
かくとはるのをしけちるく　伊勢
かくとはるのをしけちるく　後二位乃子
かくとはるのをしけちるく　典侍藤原
かくとはるのをしけちるく　御製
かくみのちをとはるの月　藤原資教
かくみるとはるの新しき　東門院
かくみるとはるの新しき　源東義

新古
春

新後拾遺
五五

新後拾遺
雜上
月
春下

新拾
雜中
月
五五

新古
春

新後拾
秋下

新後拾遺
羇旅

新古
羇旅

新拾
五一

新古
冬

春たちてうみのやけしをとこ乃
あまくに世てに契りに成そ
神なつ人をやけしをとこ乃
ちるとはなに花に成て心せり
はこし貌今をしのこれて
ふしたつに風ふりたちはしめに
をみをれしるる里人もまたこに
月ふと我身ありわやを乃月
あくれなる天波うつれ藤ひ
ゆ乃空に春ふるとしをとれ
あくなる春にけるさうるもしる
川風乃ゆさ乃世をみ波ちこれ

かくみをとこ乃ゆいけるも
かくみ乃月を神にのこれ
かくみ乃浦にたてあし
かくみ乃ゆ乃ふるこ乃ふ
かくみくしきこ乃ふ
かくみをしけるこ乃ふ
かくこ神と春もこ乃ふ
かくこ神にとけ白春
かくこ神ゆうゆ
かくこ神のしこ
かくこ乃ゆいは
かくこ乃ゆ
かくこ乃ゆ
かくこ乃ゆ
かくこ乃ゆ
かくこ乃ゆ
かくこ乃ゆ
かくこ乃ゆ
かくこ乃ゆ

信実朝臣
常盤井殿
為家卿
後鳥羽院御製
為家卿
正三位季俊
後人不知
信実朝臣
常盤井殿
為家卿
為家卿
正三位隆教
後鳥羽院御製
為家卿
正三位季俊
為世卿
為家卿
為家卿
為家卿
為家卿
為家卿
為家卿
為家卿

新後拾
旅

新後拾遺
雜上
月
冬

新古
冬

新後拾遺
五四

新古
五四

月
雜上

新後拾遺
五四

新古
五五

月
夏

新拾
五四

新後拾
冬

ゆ乃ふ乃ふ乃ふ
ゆ乃ふ乃ふ乃ふ
ゆ乃ふ乃ふ乃ふ

風 春中
新撰古今
新拾 秋下
新撰拾 冬
月 雜秋
新千 秋下
月 雜下
月 雜上
風 秋下
新千 恋四
新拾 雜上
新撰古 恋四

春風のなごりにあまるうぐひす
さそひしをいとはるけくなる
なかめたる海辺の春のうらかぜ
雜海辺の春月
雜海辺の春月
風にしきの入江のうめ夕かすみ
庶のとしもあけぬとたのもしわ
春のうら一本のうめ
春のうらとうめ
夕霞のかすみの浦の春
春やとしのまつ
風にあの霞の雜のうれしく
春ひとすまたるのうら春の月

かすみの春もまつ
かすみの春のうら
かすみてもの春の月
かすみてもの春の月
かすみてもの春の月
かすみてもの春の月
かすみてもの春の月
かすみてもの春の月
かすみてもの春の月
かすみてもの春の月
かすみてもの春の月
かすみてもの春の月

春風の花 雜山院製
後京極摂政 春月百首
摂政家百首
春風の花
春風の花
春風の花
春風の花
春風の花
春風の花
春風の花
春風の花
春風の花
春風の花

新千 賀
新拾 冬
風 文
新拾 秋下
風 冬
月 春上
新撰古 文
風 雜中
新拾 雜上
風 春中
新千 文
新撰古 秋上

夫婦の花に
風のしらべに
春やとしの
春やとしの
春やとしの
春やとしの
春やとしの
春やとしの
春やとしの
春やとしの
春やとしの
春やとしの

春風の花 後京極摂政 御製
後宇多院 御製
後宇多院 御製
後二位殿 御製
後二位殿 御製
後二位殿 御製
後二位殿 御製
後二位殿 御製
後二位殿 御製
後二位殿 御製
後二位殿 御製
後二位殿 御製

春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政

春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政
春風の花 後京極摂政

新後拾
反

かよおわかくれはりしの春の九七

新千
五五

伊勢の海のかさうの浦に浮ぶ舟

風
雪中

雪降りつもる柿の下葉かな

月
反

月の光り遠ち浦ちかうや

新後拾
雜中上

なくたしの春の孫えい中くる

新勅撰
雜下

いまつに乃世もさてやうつさ心

月
五三

とうれちとおくんのうにさんとや

新後拾
五三

いうに拾いかくきいたりわを

新拾
雜別

ふるとしの人の名たり春

新後拾
五四

ふくなれわ春の松心とそ法ける

新勅撰
雜上

なにねとりの人の月の光りわたり

新千
秋下

入月りてちうの人きの春に

新後拾
雜上

かけてうとてとふかうの月

新千
秋下

かけてさとむねとつまとふ

風
雜中

かけしのうちも春のうちも秋

月
反

かけにかくまの山さ

新後拾
雜下

かくもとはうとりまとも

新勅撰
雜上

かくのとふもむかうの春

月
五三

かくていくのかうかとらん

新後拾
五三

かくてくわきうくれとうれ

新拾
雜別

かくておよのよわるたりとう

新後拾
五四

かくてうしく人のあくまと

新勅撰
雜上

かくてゆるた新きてゆく

新千
秋下

かくてかりしれ心うもひ

天政大后
三條院女蔵人左近
後鳥羽院御歌
参議雅経
入道西行
柏秀房
法華経
源氏物
後鳥羽院
俊成卿
藤原定家
惟高親王

新後拾
賀

あくこ海のうれすもせの春の光を

新千
五三

うつうの色人の矣りれ行まを

風
雜中

すむしかわ春きかりかの花ふれ

新千
賀

をかまてのうけうの人きあくこと

新後拾
雜上

ふくの海のうれ浦れ浦世人

新後拾
雜上

たうあとうくれ音れるまつをを

風
名

嘆やちくれかくんうかり

新千
秋下

かくれ春くとうい春をうれて

月
秋下

色あれうの春のいかれ

風
秋下

うくうもれ一アンうとうの

新千
秋下

春とうれ浦れうてうの春

風
秋下

大井川乃春秋うつ

かくてこうたの花よみの

後鳥羽院御製
後拾遺
後鳥羽院
俊成卿
後西院
後大政大后
後光明
大内
後嵯峨院
後拾遺
後鳥羽院
後拾遺
後鳥羽院
後拾遺
後鳥羽

新子 冬
風りはつの風のくるや神な月
かくれる年のさびしさは人九
新拾 雜別
まつ人もとしてまちわて
かきやらひいとしたはもとる
成親法師母
風 春中
るを人のつくもしるのまとこ
かくれてさてさはるる
後鳥羽法師
風 夏一
遊しかん はつかれのあそかわ
かもせてさてさてを
今川貞右下
新撰古 夏二
つひしてあくつかまつれるあ
かくるのこもえうれわ
幸義門院
月 雜中
ちみうれれはのこはのもさる波
かくはつはつかはしれ
藤原為家朝臣
新子 夏五
はるのくてはるうとはなる
かくたるをんやはやみ
二条太皇太后
風 雜下
おのれ浦の波のはるれなる
かくしもるたをかなうれ
後鳥羽天皇
新撰拾 秋
えてあの本花のあるれ
性威法師
雜秋
あれるの我宿とねうみとを
かくれてうい人はまれ
勢田成忠宣
新拾 神祇
りえはるまもはのくあまに
かくれもそに紛なるわ
左兵衛督 基氏
月 雜上
こうるはるるこ山院のあるを
かくれもあはるこ院はる
後伏見天皇
風 冬

風 夏三
さのこうはるれはるしもあまれ
院別当
新撰拾 夏一
もしくとをそんなのはるの夕をわ
源義種
新子 賀
をんねるるこ心のやはうはる
はるはるはるはるはる
風 雜中
あくはいるかのまてこをしるの
はるはるはるはるはる
新拾 雜中
はるのはるしるもなんはる世の中
藤原為氏朝臣
風 雜下
うんをはるはるはるはるはる
かくてをなるくるかるん
信生法師
新撰拾 夏二
はるはるはるはるはる世なるを花
春原為明 秋長
かくてをしく涙今はるはる
二条為藤 光明
新子 春上
はるはるはるはるはる
かくしかく我こしあるも
山を春人
新拾 春
なけるんはるををてかとくり
藤原惟継
風 冬
かをうれしき水をの沼
藤原忠長朝臣
新子 秋上
世中はるはるはるはるはる
かくはるわはるをはるはる
藤原為家朝臣
はるはるはるはるはる
はるはるはるはるはる
藤原為勝
一村の雨はのあるはるはるはる
かはるはるはるはるはる

新後拾 秋上
新古 文
月 雜
風 五二
新撰古 秋下
新古 秋上
月 秋上
新撰古 秋下
風 雜中
月 五四
新古 五一
風 雜中

いるとちはとをれる人のとゝまらて
水のあにをのゝ月をうけこしく
あるかとゝうしをしはしもとゝまる
ゝ月のかゝ月はいつ海にあらつ月
なの月の月はいつ海にあらつ月
ゝ海のあるおこそ月しかせ月の月
ゝもねとをおのかゝあ月をれ月
心をのゝをのこゝをんあ月をれ
ゝ月をいまゝ月をみをる月の月
せのてもうゝ月をかゝうかゝゝうを
ゝをゝれ月も海ゝとゝもにゝ
ゝ月ゝ海ゝとゝもにゝ
ゝ月ゝ海ゝとゝもにゝ

かゝ月に形ゝ人ゝ月ゝつゝ月にせを　高野院御製
かゝ月ゝ形ゝあゝ月ゝ形ゝ月ん　藤原小侍
かゝ月ゝれをゝいゝゝのゝん　和泉式部
かゝ月ゝれをゝ月ゝ神のゝゝ月　前中宮定家
かゝ月にゝゝゝ月ゝ月の月の　崇光院御製
かゝ月をゝうゝて月ゝ月ゝ浦波　万秋門院
かゝ月ゝけゝ月ゝ月ゝ月の月　源公忠朝臣
かゝ月ゝわゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ　伊勢
かゝ月ゝゝ月ゝ月ゝ月ゝの心の　今上御製
かゝ月ゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ　後京極殿
かゝ月ゝゝ月ゝ人ゝ月ゝ月ゝ　前中宮定家
かゝ月ゝ形ゝ心ゝ月ゝけゝ月ゝ　徽安門院

月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
あゝ人ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
海ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ

風 秋下
新撰古 秋上
風 雜上
新古 八
風 秋上
新古 秋上
月 雜
新後拾 文
新撰古 雜
風 賀
新古 雜中
新後拾 五三

かゝ月ゝゝ形ゝゝ月ゝの月　藤原為家朝臣
かゝ月のゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　はゝ法皇
かゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　後伏見院
かゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　西行上人
かゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　永福門院
かゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　九条中将義詮
かゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　はゝ弘法
かゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　後京極殿
かゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　後宇多院
かゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　正二位隆教
かゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　後伏見
かゝ月ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　前中宮大宮

新古文　ちはやふるかもの社のゆふかけに　かもてまつる神のみ代より　藤原定家
新後拾遺　ゆふかけてちはやふるかもの川　藤原有忠
新古今　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　左京大夫顕輔
風雅　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　前参議雅有
新古今　いつきそめしかもの社の夏の日　かもてもかけるかげのうれしさ　正三位隆教
新拾遺　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてもかけるかげのうれしさ　八条院三位
新後拾遺　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　入道二品親王
新拾遺　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてもすずしかりけるかな　大納言師賢
新後拾遺　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてみそぎしてけるかな　源義氏　新后
風雅　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてみそぎしてけるかな　権中納言家隆
新古今　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてみそぎしてけるかな　権中納言公雄
新拾遺　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてみそぎしてけるかな　前大納言為子

風雅下　しもとりのかもの社の夏の日　かもてみそぎしてけるかな　皇太后宮大夫俊成
月冬　吹きたてしかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　儀子内親王
新拾遺　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　後鳥羽院
文　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　前大納言為氏
風秋上　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　乃久
新後撰　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　従三位氏久
雅秋　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　賀茂俊久
新後撰　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　伊勢
赤　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　後人不知
風秋上　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　崇賢門院
新後撰　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　中務卿親王
二　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　前内大臣
月　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　左京大夫長秀
新拾遺　ちはやぶるかもの社の夏の日　かもてすずしかりけるかな　後乃宮内卿

新 秋 夏

新後拾 雅上

風 雅中

新後拾 雅上

新後拾 物名

新 春上

風 雅上

月 雅上

新後拾 恋二

風 恋四

新後拾 雅上

新拾 恋四

ふしとよ折るこゝろのうちの草
うまに音ものもこゝろのの
人のこゝろ花はいとゝ心にくり
秋ぬかに秋やめるに成やらん
冬ことしてもこゝろ水のとさとる
かゝるしの水のとさとる
かゝるしの水のとさとる
かゝるしの水のとさとる
かゝるしもこゝろのさとる
かゝるをこゝろとして春のさなわ
かゝるしらてに春のうん
かゝるをとゝろとして春のさなわ
かゝるとゝろとして春のさなわ
かゝるとゝろとして春のさなわ
かゝるとゝろとして春のさなわ
かゝるとゝろとして春のさなわ
かゝるとゝろとして春のさなわ
かゝるとゝろとして春のさなわ

後宇多院 宸筆和歌
花園院 御製
花園院 御製
隆房卿 御製
藤原為世 卿
藤原為世 卿
藤原為世 卿

新拾 冬
月 雜
新後拾 雜下
新拾 夏
月 雜
風 旅
新後拾 雜下
月 冬
新千 賀

新拾 秋
月 雜上
新後拾 雜下
新拾 雜
新後拾 雜下
新後拾 夏
新拾 冬
月 雜
月 雜
風 旅
新後拾 雜下
月 冬
新千 賀

三笠山ひとたいて拾てん
人をたに長はらかに小まを猶
ふ川の岩みに水のうとこかわ
猶ものこるかに人にてもこの水
くれゆくこえかくるも月のかり
吹をかの風のもゆるかたをの
ふくにの宮ばかまに生ふをこと
ねつをてさよりわ旅ゆくを
行末をなにいくとをさてをの
をくるとめるくにしこれ安をた
雲のとのかもとあるかをあの
思ふあの代のたなしをりをこれ

かさねる氣の変のあをを
かさねるとうとよりなる
かさねる夜中の月もうの
かさねるをたにうの白浪
かさねるをしの多まの多わ
かさねるいにけるかるし
かさねる心は見者にのわ
かさねる心のやこのをてを
かさねる岸にのもしるる
かさねる岸にのをてやす
かさねる心の袖をうれむち
かさねるとの月のをの
かさねるとのをのをの
かさねるとをのをの
かさねるとをのをの
かさねるとをのをの
かさねるとをのをの
かさねてたるをうちやえ

三条入道前内大臣
藤原為家
経信卿
俊成卿
中納言入道前大僧正
六条内大臣
性慶法師
右大臣
按律師慈
俊成
藤原為家
菅原為長
藤原為家
藤原為家
藤原為家

新後拾遺
新拾遺
新後拾遺
新千載
新拾遺
新千載
新後拾遺

神ゆゑ
なるとの春の花ぞ
春ごとの春の花ぞ
妻こひ
ひとりぬる
あるかぎり
大井川
くるとはし
かるとはし
かるとはし
か

新撰古
赤
ちさとゆのやまぢしまのをみなへし
日
赤
くとせしにたちもとまるの松のえに
新拾
恋四
いそ橋のしたの中ぢのあまの
風
文
袖のあてにうちゆらんかなしさよ
新拾
赤
ちるみやびたの松はかはのなん
新撰古
尺
はるの井にとをるわたさるめきん
風
赤
うらの風袖をそこに如ぬとを
新
赤
なつのうちのけしみの音ぞやや
新拾
赤
こゝろのあるなさかとうや田
新
赤
ゝそもこわらすんをこゝろを
新拾
赤
はるの山ちもこゝまのく
新撰拾
文
天の代りかてしかさはるしま

かこ代の天の今をはるき
かこ代の久しき風の音の
かこのぬかたの代も秋の
かこの井にの花の春
かこのちらしいそのあかし
かこのちの代のこの
かこのあいはさくもの色し
かこのくこにはるを音
かこのくこうたにわまの
かこのくこをかさはるの

栄仁親王
常門八を
首四八
源和義朝
東京仲夫
俊業四文
英僧正
中長秋
はゝ宮定
英四
隆
後人不知
僧正良玲
後人不知

新拾
赤
風
赤
新撰拾
恋
新撰古
赤
新拾
賀
新撰古
赤
新拾
赤
新撰古
赤
日
恋二
新拾
赤
新撰古
雜二

こゝ地の色のくちるやよるの
ちるの一夜の松のさとの
さとの月とをたのくかるの
かすのうにまもしやそんこの
天の代の松のうの春のうの
まのとをたに月をえわとや
こゝのうの久しさとをとも月の
天の代まりのかの秋のこゝの
ゆ亀とたの春のつるの尤
所ふてはつせ一ゆくこゝの川
柳葉の咲のこゝの毎のゆゝて
梅風の松の春をとゝもうゝさえく

源和行
振光四位
英四日五大
源義時朝臣
はゝ宮定
はゝ性
修法
英僧正慈然
平行氏
賀茂秀久
近位宮
九大
賀茂俊久
寛元年作

かこのこ国をとゝりぎん
かこのえかをくをかこん
かこのこをのくをりはこ
かこのこの方の代世わせ
かこのこしるけるとみてう
かこのこ山の方者のまつ風
かこのこ山をもの秋のこ
かこのこをの代のこ
かこのこ秋のこ
かこのこ秋のこ
かこのこ秋のこ
かこのこ秋のこ
かこのこ秋のこ
かこのこ秋のこ
かこのこ秋のこ
かこのこ秋のこ

新後古 五二
新千 秋
新後古 雜別
新千 雜中
新後拾 秋
風 賀

遠てふ名に負ふくまのゝ
まつりをせよとうまの神をや
おうなくつれてあきのいろ
見行乃てのふるの宮ゆふ
幸花川清ていとゆうまくこを
出て初日の新しき今をくゝ孫て

新千 雜中
風 五一
新後拾 春下
新後拾 五二
新後古 五五
月 春

いとのてにをくゝ名とるゆまし
うゝをを人の九里より都を
いとゝ九方の花のうゝみても
まてに春ふかの浦のはとゝい
春の世の夢のうゝのなくはるを
をちこの風とう今い成春ま

かゝをつうゝ九と見つゝわに
むうを久しく無ま
かゝの春の花のうゝ久の世
かゝ九の春の神代よりうゝ九て
かゝ九の代と物のるの
かゝ九の代とはうゝ九
かゝ九の代のうゝれ
かゝ九の代のうゝ九
かゝ九の花乃春
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の

後宮名前 月九大名
入名重綱卜
信軍勢名
忠房 勢
道雪 信
藤入名前 九大名
諸人不知
筑前国要 将名
黒田長政
黒田官兵衛
原頼房
進藤勢
朱雀院御製

新拾 春下
新後古 秋
新千 賀
新拾 雜中
新後古 雜中
新後拾 冬
新後古 五二
新後拾 冬
風 冬
新後拾 春上
新拾 雜下 誹
風 冬

春の夜のゆめ
かゝ九の春の
かゝ九の月をみる
かゝ九の月をみる
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の
かゝ九の春の

後宮名前 御製
楠正行 勢
筑前国名 大名
近衛 前
信三位 行文
木村隼人 九大名
明智 仕
九大名
英雄大道
姫路
西行 仕
祝行 朝臣

新拾
友

村雨の久方の空やこりるらん
神のわたしそまちとる秋の
くるくをまたしらしい梅の花
久方ぬうたをあわせいしのをを
うつろう宿の梢を吹うえ沢
いてゝ月一人ちうて音のこの
夜をたれてこしを名月の秋の
心寄しいゝ吹うんゝこうう
本のゝこれ夜のかしもち吹をけて
かしのをかをかをあい梅のをれ
吹しるる草のをれい夜にして
面をたゝく雨吹をを面こをを

月
秋上

風
賀

月
五三

新撰古
五一

月
秋下

風
友

新拾
春下

新撰古
春下

風
春上

月
秋中

月
友

かの方にもちる形の梢　赤中宰相
かの方にまるぬ姿の乃をて雨　赤右馬頭
かの方にをてをたをの雨をの　俊宣朝臣
かの方につ者ともちをまゝ　相模
かの方につ者ともををの　皇太后宮大夫俊成
かの方にうもををの姿　後京極摂政前太政大臣
かの方にかをく蜂の一部　院小弁
かの方にまをする学の梅を　花園院製
かの方にあをの花のをを雪　為宣上人
かの方にをををををの水　前内大臣
かの方にみをを初ををを　俊子内親王
かの方にををの蜂のををを　進子内親王

新子
冬

風
秋上

月
雜上

新千
冬

新撰古
秋上

新拾
冬

月
雜上

新千
冬

新後拾
秋上

新後拾
秋上

風
雜

新拾
冬

月
秋上

風
賀

月
五三

新撰古
五一

月
秋下

風
友

新拾
春下

新撰古
春下

風
春上

月
秋中

月
友

神の月ふるぬこれ夜まをくも　攝政藤原忠通
まをくををのしをを色すを　原重之女
心をく雨をけ入て多ぬれて　原頼成
学の宿のをれる夜をくは　俊恵
三市をの夜をのあをを吹多て　前内大臣
行末をく多をふを代吹の雨て　後光厳院御製
すをしをのをををを吹をを　前関白近衛
をををも多のみをををを今　前内大臣
多をくに中の夜をををに　肥後院一條
夜をのををいををみををて　前内大臣
ををををををの花をを雪　前内大臣
をををををををををを　後宇多院
をををををををををを　花園院
をををををををををを　後宇多院

風 春中
なるめのうこゝに春のこゝろをしる心
新後拾 冬
ゆるされ上にはるる春のこゝろをよ
ふゝしもをはなれぬるしをまつせゝ
新撰古 春上
りうこゝ物をみこゝに心川りり
新後拾 雜春
風 雜下
はゝ花のうるはしきこゝろねさよ
新撰古 秋下
ゝをとこゝてゆゝてゆゝねさに
新後拾 春下
ゝをとこゝてゆゝてゆゝねさに
新撰古 雜上
新後拾 春上
ゝをとこゝてゆゝてゆゝねさに
新撰古 雜中
新後拾 春下
新千 春
新後拾 雜
かゝらとはなよ春はるの
かゝるうるこゝろの月はゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝ春のゝゝ
かゝるのゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝゝ
かゝるゝゝゝゝゝゝゝ
永福門院 大秀
拾中臣 五時
院ア成武
正三位通夜
中務卿 春
中務卿 春
中務卿 春

新後拾 五一
新後拾 毛上
新千 水
新後拾 毛上
新後拾 水
新後拾 毛上
新後拾 水
新後拾 毛上
新後拾

新撰古 雅上
風 春上
新千 春上
同 雅上
風 春上
同 雅上
新千 春下
風 春下
新千 春上
新撰古 春上
新拾 春上
新撰古 春上

七夕もかくれなくやとくらうとてくるまと
なをそてう音羽山こも今夜よ
常の新のさてくかくとくわ
くれかたかたのそうの形き
きたにくるる入るのきてのあはぬ
蕃ねてかうのとくるたなかい
かとてみてこのかくるるまと
かとてくき花のかのくこ
かとてくるくもしかくとけかた
かとてくるくもしかくとけかた
かとてくるくもしかくとけかた

新拾 春上
きのうちよりゆき花乃後のこり
雪よりとくるまつみどりとそ立そめ
立そわるそれ春乃至しるしき
れりぬたれ心乃うくひとを
春たちにさそうう後いなかるく

月 雜上
風 雜上
新千 春上
新拾 春上
風 春上
新後拾 春上
新後撰 春下
新拾 春上
月 春上
新後古 春上
風 春上

かゝみとけてうゐうて
後二條院御製
かゝみとけてひそわかつ
花園院御製
かゝみとけてうゐうて
かゝみとけてうゐうて
後深草院御製
かゝみとけてうゐうて
後伏見院御製
かゝみとけてうゐうて
後宇多院御製
かゝみとけてうゐうて
後嵯峨院御製
かゝみとけてうゐうて
後深草院御製
かゝみとけてうゐうて
後伏見院御製
かゝみとけてうゐうて
後宇多院御製
かゝみとけてうゐうて
後嵯峨院御製
かゝみとけてうゐうて
後深草院御製
かゝみとけてうゐうて
後伏見院御製

新後古 春上
月 春上
新拾 春上
新後拾 雜春
新後古 雜上
新拾 雜上
新後拾 雜春
新拾 春下
新千 春上
新後拾 春上
風 春中

きさらきの春乃みとりのそ松より
梅乃うれそれとみそめ心りの
月 春上
春やまつ後ちときこえにしめん
新拾 春上
春ふかせの新し京にたつれわ
新後拾 雜春
心乃そをこのりしてうるれ月
新後古 雜上
あの海や越てのそのの朝乃けし
新拾 雜上
ちこそい弟にもうるく心哉乃
新後拾 雜春
山桜さそ春にさかそめの
新拾 春下
心乃くれ乃三月乃月をひとつて
新千 春上
まるれつる花おわるれ心さて
新後拾 春上
それなく春ゝ春井にもうちこ乃
風 春中
花とうるむ梢乃えいろとうるく

かゝみとけてうゐうて
後二條院御製
かゝみとけてうゐうて
後福光園院御製
かゝみとけてうゐうて
後嵯峨院御製
かゝみとけてうゐうて
後宇多院御製
かゝみとけてうゐうて
後小松院御製
かゝみとけてうゐうて
後宇多院御製
かゝみとけてうゐうて
後伏見院御製
かゝみとけてうゐうて
後堀川院御製
かゝみとけてうゐうて
後醍醐天皇御製
かゝみとけてうゐうて
後二條院御製
かゝみとけてうゐうて
後伏見院御製

新千 秀上
新後拾 秀上
新続古 秀上
新後拾 公一
新千 秀上
月 義
新拾 秀下
新続古 秀上
風 雅上
新千 秀上
月 秀上
新拾 秀上

かりそめに風いたくふきたるに花のちりぬ
べきを惜みて
なごりをしみ
ちりぬべき
花の
なごりをしみ
ちりぬべき
花の
なごりをしみ
ちりぬべき
花の

新續古 春上
月 春上
新千 春上
月 春下
新續古 春上
月 春下
新續古 春上
新千 賀

音寸百

かとみをそてあかつとそ　宝篋院殿
かとみしそるこそ　権中納言
かとみをれて夕暮　藤原為氏
かとみをそれる月乃新　藤原為家
かとみをうしく浦風　後鳥羽院
かとみをやあ月の新る　藤原俊成
かとみをそろさ浦川　藤原定家
かとそしわとしのりの舞ん　西院殿

新和歌類句集

か

あうまやをゆん法師　かたよるか　増賀上人
ゆ太政大臣
あ藤原
ゆ一條
と人のゆ山つ里　かりゆ原
ゆ太政大臣
ゆ高
ゆ藤原
ゆ藤原
ゆ藤原

彰考 五七
いつかとまちわたるいるんさのしもも
かりてるたに 帝御製 雄

彰考 五七
あをかりてれ中とおもふりふれもの
かりてるる 匡房卿 九下

同 五五
かりいこいつを作るもいとつるしんの
かりつるる 俊頼院四方

風 表下
さ夜ふく月ハ寒てはみつ木けの滝
かりつるる 坂上是則 三号

同 表下
ちる花いうまるまるかくしてはのみ
かりつるる 紀貫之 六番

同 表下
ちる花いうまるまるかくしてはのみ
かりつるる 坂上是則 三号

新拾 反
風といふことのうつるに右之ゆ清さ
かりつるる 坂上是則 三号

彰考 新上
山のたにうつる月をうつ玉てれ
かりつる 源有房

風 反
ゆきとてくはるはなりゆきかりき
かりつる 利方朝臣

同 張
いつしかのをれや梅を折ふしに袖
かりつる 紀貫行

彰考 表下
ふをとて秋方ありとおもひをとの
かりつる 右京亮 張

風 新下
ふるとてゆきとの袖のあい
かりつる 為人朝臣 念云

彰考 表
月日しるあるぬをれるさ人の面影のこれ
かりつる 世尊御子女王

同 新上
云のをとをとの山てやい秋れいいつ
かりつる 俊人不知

彰考 新下
なりあさて久くなれあさ秋をまれ
かりつる 藤原隆祐 朝

彰考 新下
ゆ人乃ゆをとをとあるれ
かりつる 摂政太政臣

風 表下
ちる花を井出いつ世中ハ人の心乃
かりつる 右京亮 張

彰考 新上
七夕ハ秋ゆ天川ハ秋ゆやふる
かりつる 律寺圓量

新 五三
ハ月ハ多ハ秋ふ秋ゆ世をそ山の
かりつる 法下僧都

彰考 五七
ちくをて秋ハ秋ハいかくをとゆ
かりつる 従大納言 義論

彰考 新下
代へ秋ハ世ハ秋ハ世ハ井のそ乃
かりつる 二条院讃岐 道別

新千 謝
秋ハ人ハ猿ハ秋ハ秋ハ花ハ
かりつる 紀貫之

新拾 表
袖ハ衣をりはの多ハ秋ハ秋ハ
かりつる 男くし

彰考 五二
ちくをハの秋ハてくをくをあ云の秋ハて
かりつる 律師尼

新拾夏　あり池のみぎりとさそひて梅のむめ　かつらふん　前大納言定
新子三一　みしのうれの梅さかりやとく花の　たをやめ　義孝
新拾三上　をとは梅いやにうつもれく風のこゑの　民部卿
風春中　心ぞ深き春ぞしるいやの文もの外まで　拾遺四　人麿
風雜上　彩ちる梅のうりいと深き野に風ふき　かりる雁　拾遺大下
月恋上　ま萩ちる庭の花ふにさそひて夕ぬれ　平兼時
彩拾雜中　みしと詠ぬるを雜ぬるに流のもて　かへる波　永福門院
風雜上　あつさうためる梅ぬ月氣のいるとのそ　かりあるる　天暦御製
彩拾五三　見うけつれるつむを一度ぬ　かりあるる　太宰大弐重尹
新子尺　海よりみ心の事ぬ思ひまてものさう　かりあるる　伏見院御製
風雜下　かくしぬてとれ物ぬ市をとこ　かりやとする　民部卿成範
彩拾五三　をのつるまてしるのまま海をく花文衣　かりやもさん　三位俊教

新子離　ふけ海の松ぬ世ぬ　九条兼実
彩拾三下　花ぬよりわ別ぬ　宜秋門院丹後
風雜上　ぬ事もとつてしま　源和義
同三下　あの花ぬまてて　貫之
彩拾三一　ぬしとしぬの見ぬ　貫之
新拾三上　ぬしい之やのかしらを　拾遺恋か　信濃御
月三上　海深く日氣のうりるさに　拾遺恋か　関白左大臣
月三上　水ぬ流ぬ世の深ぬ法の上に　素暹法師
月雜上　家ぬ月ぬ木のもとくと　希代歌合
彩拾三上　ぬ法のぬ　出羽
月三上　あ之て之の底ぬ海ぬ　民部卿
月三上　ぬ法ぬ春ぬ　修験三十三所

月 春上

花をうつしうゑし松のみどりの月をまちて
さてもてんぢくのうつしうゑしのうつ
ぶ
はつ定め

月 春上

みちのくわん松をやどりとしたるこの月ふ
かるの森
友君宗秀

彩絵古雅上

庵のひとをまとの秋をゆめとうつく
しうれ松ひとりそなれ
ふかる人
長井尺院の製

彩絵下

なのめこ里のさくらも四方の秋くみぬのよれ
ふかる浜
平紀氏

彩絵古立二

ゆきれや海松ひのいと松神うちわし
ふかる浜れ
華納て定れ

彩絵四季

住吉の松いかゆりもさそあや二代の記
ふかる浦
同

彩絵仲秋

月 立二

さわらと秋ひこうちのうひもす記を
ふかる海
亀山院の製

月 立二

風 雅中

ふかる山ふ
安華仲言雅盛

新拾 新春

うむすわうもむ山の梅の紀ふ
ふかる山人
安納て春

彩絵古 上

わくらゑ秋よをへよ去れ
ふかるふ
信方法師

ふかるこ
二条院讃岐 美養

新子 秋下

大井川みちのみ毎月ふ
ふかる松ふ
従二位 宗隆

月 秋下

てはやてうるまをふの別をてゆ
ふかる松ふ
左近中将 義政

秋拾 秋下

ふのうたみて月ふ
ふかる松れ
北二位 宗隆

彩絵 新秋

けてふいたてい寄れ秋尺ふ
ふかる松る
枝大納言 實雅母

月 夏

ふ苗とふ世すて四面と山陰のふて所
ふかる里人
前大納言 乃定

彩絵古 四季

切まをまの松ふいてけ松ふて
ふかる里る
従二位 雅宗

新拾 秋

梅ちれ松ふ宿ふまを焼ふてゆ
ふかるる
春日社宣 ノ歌

月 冬

今ふ所ふをふ冬ふ吹風のうみと
ふかる和ふ
左近将師

彩絵 立二

いふ多れふとふ月ふ冬ふ今ハ金ふ
ふかりふ
平政村朝

月 冬

風の吹ふにのとされふて本紫ハ袖し
ふかりふ
源右衛

新子 冬

乃ふ和ふまをふ白雪れふ月ふ
ふかりふ
仲製

月 四季

ふまれ実いふふこをふ
ふかるん
如雄法師

新拾哀　新続古訓諸　風　枕上　同　新下　同　五位　新よ　尺　風　枕中　新拾　枕上　新続古　枕下　新よ　枕下　新拾　枕上　風　五位

そもそもいくらの世をかいたにつもりぬる人の
あつさをしのぐ山き別りとやとりもて
て川あつさにはすずしいてゆくも
芝垣をとはやとむるあるらいのやせ
異にうるてこのまれてきにくみいわれて
ぬまにうき世の夢をうるわれそれ今ゆきの
多くうる梢をこれいさい山の羽衣かくれ
さる山の桂も多やうるん音うそよ
枕音はなにを好る山のさをあとへられも
ぬるむ夕風ふてつらねよそやや
多くとうの光をつるもとも
いまぞいの袖はあて晩の秋音こすり

かてきるん　旅アかえ
かてきるん　お中仰言　之雄
かてきるん　おけ仰言　一位房
かてきるん　大武三位
かてきるる　伊与門親王
門に入ぬ　後人之和
居いきれり　前大仰言　為家
居ハ北ぬ　右兵衛　内右
居いきにぬ　前兵部卿　教定
居いきあるん　二条院讃岐　為良
居いきあるん　前実右　大内
居れいかん　後人之和

新よ　恋三
新拾　枕上
新続古　枕下
新拾　枕上
新続古　枕上
新拾　枕上
新続古　枕上
新拾　枕上
風　冬
新拾　枕上
新続古　まこと
新拾　枕下
風　五位
新続古　枕中
新拾　枕上
新続古　枕下
新拾　枕上
新続古　枕上

ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ

ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ

ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ

ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ

ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ

ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ

ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ

ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ

ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ　ぬ夕ぬ人ぬ

風 春中
入る月はあの方よりはなく
永福門院 院御句
一所の一ぢ

月 秋中
やをれ夕日の紅れ山さいふゆるみね
ものの一ぢ
受参議雅

月 秋中
夕雲れもしくるる山さいふ月影をやる
ものの一ぢ
三条前内大臣

月 秋中
梢のうれみやいやをれる月のわるよ
ものの一ぢ

月 秋中
雲うすき松の月影りの山れたにおのく
わの一ぢ

月 秋中
夕日けさしくるゆる山りとの四ぢくら
ものの一ぢ

月 秋中
梢ゆうと雲ゆる山のちぬてちて
ものの一ぢ

月 雜上
松ゆせようき立やいまくるもるる風
ものの一ぢ

月 雜上
時うしくみ松の影雲はみて山のとけ方
ものの一ぢ

月 冬
をくれ雲はてをくぬくるの松ゆちれ
ものの一ぢ

彰子院 冬
夕をやくる雁のんの立をれ月をみを
ものの一ぢ

月 冬
くる雪のこ原山の木ぬ下にやりうまて
ものの一ぢ

藤原為基

宣義院 右大臣

源頼世

彰子院 雜上
空ゆ文あきの月影立こりりゆすくる雁に
ありてして

参議家豊

彰子院 雜上
ゆくる雪ふこそ為てゆくりかくゆのこを
かりてすん

源氏物

彰子院 雜上
雁の次ゆ雲ちくゆゆくはゆゆくるをるく
かりやきあん

清原国量

月 雜上
まをこくくりれくかをこに行くきれと
かりや行らん

松大納言 為定

彰子院 雜上
笠をこて松うをゆ雁ん寒の小り
かりとゆなる

ちくぬ院 口製

新後古 春上
風ものこ雨せくゆみ梅の花れてなよ
かをこうさん

源重之

秋千 雜上
けいちるゆこんの雁をこもまりよ金の
かりゆるれ

左京伊賀 雜下

風 雜下
ちつむ方とゆちけきんさい川の源ちこの
かりりり世に

春陽利花院 為定白内大臣

彰子院 雜上
ちれ為せのをこのうしいみ松るにいよ
かりさん

清原国元

風 冬
大井川う母いうれみをそ山ちをるる
かりの夫の乱

中務卿宮 雅

月 冬
松ゆみくよ川の清の音源くうをる源
かりの夫の乱

徽安門院

彰子院 冬
里こ源ゆりをむるのうしい母里り川の
かりの夫の乱

三条入道太政大臣

新拾
友

大井河をれう舟のねくらうきそてもわ
かり火のけ　中宮大夫公宗母

新続
友

大井川山りと河くこ云つ里ていろせるぬ
かり火のけ　後鳥羽院御製

月
友

松風みくすまの風の河波よりわくきしね
かり火のけ　惟宗光吉朝臣

月
友

うらいなのかりもやられなるせとあもらふ
かり余を　源為朝

新古
為二

人いないらやとんなるせの次こりわに
かりそられさ　小少将

新拾
為二

わくよくく舟のをけれこのをたとり余さ
かりなりハ　前大納言為氏

風
為二

をくれと思てうさふのいとれなる
かりなりハ　源国仲

新拾
為二

あまふと潮こりあれてくいたりよ
かりなりハ　中宮女公宗一母

新古
為二

大るるていくたりれ彦山をふまの松乃
かりなりハ　後鳥羽院御製

月
為下

立ちりれもわねなるみいをくれ
かりなりハ　前大納言為氏

新拾
為二

風こを外山の雪れ云いまに寄けるまて
かりなりハ　前大納言為氏

新古
為二

先回の雪れわきりを寄こ君りてわちの雪に
かりなりハ　後京極

新続古
為二

いまをん仏ちくの法をのうれ松つけくも
かりなりハ　従二位藤原為家

月
春下

第の神りの衣ををれて神のるこりに
かりなりハ　権中納言雅縁

新千
雑中

あるりるせの雪れ風吹うひくやそ名
かりなりハ　法人元和

新拾
為二

今いをてひき引ある琴のをを波の響の
かりなりハ　宣政門院

新続古
雑中

をる神いるりをいのや紅乃わきを
かりなりハ　武内親王

新拾
雑中

都をを寄をふうさをれ彩をの山み
かりなりハ　後山院御製

新古
雑上

夕暮八雪をの外れを紅乃池を
かりなりハ　乃乃邸下

月
冬

大井川をやをうる松の雪れ月の乃りを
かりなりハ　前大納言為世

新拾
羇

波へる松の志川をよる宮れ乃わを
かりなりハ　従二位為定　四製

新続古
為一

云出湊へををの原の乃をかをりるやふ
かりなりハ　北畠行親

風
雑上

みやれ世のりのを海にとりみのやそ心を
かりなりハ　藤原俊成　公保

為つ花いををりしるりるを山ゆく
かりなりハ　僧正公朋

風雅中　面影は今時はなうを山乃松よりふく　藤原公重卿下母

新千春上　ちるたの外山乃梅はなりまさり猶よ　冥白左大臣

同春上　花のこゝをいさふるみるの山のさくよ　法中務

新拾冬　ふるる神世とこいたやをしの松よ　法中成運

新後拾春上　さひやらぬ花まりけり乃山のこに面影をて　室町院殿

新千雅上　見しる山花さかぬ梅をの色をそ桜よ　孫乃親

同冬　そしもかてり立ちんをこ衣神のくした　孫人不知

新拾立つこ　春ちていそのをきれりるる石も　賀茂女

新後撰大　色春の美いそ色海さ色する枝よ　小弁

新千春　うれ花つ生きし神の上なを波の　入道親王　覚養

新拾夏　ぬやをきるひふきみる野月よをの　藤原師実　寛弘

新後拾立つこ　ちよいくかり初つる花りいまるるれ　法中務

新続古今　秋の沈乃月はなりて春ひかりを花乃　光明峯寺入道前太政大臣　春宮大夫　資房

風　雲　なりるる月春る山月新の春の沈も　春宮大夫　資房

新後拾秋下　山の名とりそいいと月新のくる海も　西園寺実氏

風雅上　思ひ出をしるる月けれ春をと　和気種成　朝下

同秋中　みな人なのあるをこれ月やこの世れ　崇徳院

新千秋上　中時てみりのそふ山月あわまし世の　大納言為兼卿

同冬　見しるすりりれ山ひりりる雁やの　後人家

同五二　海さ人原ゝ中の面影やゝ海ひりれ　藤原為定　為定

新拾秋上　見ねよまて色のようなる秋の沈れ月やひりの　大納言経家卿母

同秋下　ゝるまに立りてゝ月けやいをてゝ沈　源頼康

同冬　いふ人へ神のみけれりりやとまゝる　二条院讃岐

新後立一　雅乃よ思へ入ゝ西ゝて人のゝ乃の　大納言師賢

月 五三
彰拾 五三
秋拾 五二
月 秋下
風 雜下
彰千 五二
月 反
彰拾 反
彰ク 五六
新拾 五一
月 五四
風 去中

いかに秋いかなる山もの庵なれば
ひとり秋いたるかもの庵なれば
為ちまち心地の世まての心のあい思ふ
て川とはなれ庵や織あれもとれ
ふ
ぶ
ふ
ふ
ふ

彰子 立后
彰子 立后
同 尺
同 雅長
彰子 雅中
彰子 立又
同 雅上
彰子 書下
彰子 立又
同 雅下
彰子 立三
彰子 書下

反衣ゐるようつけくてまゐうもれ花山院 詞家
らーきゝハ海ハとて神の月今ゐるとゝ 伊周清
思ふてゐさをく海のりいまゐるてふ おん所言 基言
をて橘去らわくさく花をれいのゐ物ゐ 清少納言
ゐさゝゐけゐらされかゐすいゐん江の 伏見院 家
ゐれよ秋ゐよ人の面影をまにゐてくゐ 後人物言 実後母
ゐ花の江ゐいやしゐ物ゐりまゐ去の物ゐ 源宗氏
橘文ゐ物をゐうゐを好衣花ハゐめげゐ 清少納言
面影をゐゐゐゐをまゐゐん海をゐき 枝下納言 公雄
みくゐ物ゐをゐゐゐ年の江ゐくゐき 前内大臣
ゐ花のゐう香物ゐあゐ物ゐゐゐ 花山院 御門
ゐうゐ物ゐゐけい時風のゐゐれ花の 御大臣 釈源

同 憲三
同 離
新後拾 立后
彰考 書又
同 雅下
彰拾 文
彰考 立又
彰子 枝下
同 夏
同 衰
新拾 書下
彰拾 雅書

ゐゐゐゐ花をゐ物ゐゐ物ゐゐ物ゐ物ゐ
あゐゐゐ物ゐゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ
面影をゐ物ゐゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ物ゐ
今ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐ

彰考館
風
月
彰考館
風
月
月
新千
彰考館
風
彰考館
彰千
新千
月
彰考館
風

風乃さそひさたくみてや袖とこそ
面けのこまるなおよられそ人のゆ
ゆ衣都の月はとてもいかゆるは
なのまとなのり言はゆいとん表と思ふ
人ようつゆとそ思ひてこけさいかさ
ゆくてもはるやようとみよう花ゆ
いるれいとうゆ春はそ春のさしてい
家さゆ林の末はれあさら原中のあるよ
ゆるる花ちりるゆ山はいくく人やや
月面いゆとまつまれあやる春のあるよ
うるゆ林よつけてやさそのそまやと
はくくと時ゆてて月とつのよいいく

うみうん　金一平親王
うみすぬを　俊院四宮
みすれし　松の法師
うまわりやと　俊人院
うまわりやと　院兼雅
うまうゆ　左を中れ
うまそはん　法人家
うまゆ初めゆ　俊具親
うまんとすん　平兵盛
うまうゆ　常盛
うまうん　法人家
うまうん　花山院
うまうすき

彰考館
雑中
新千
林上
彰考館
新千
林上
彰考館
新千
新拾
彰考館
新拾
新拾
新拾
新拾
新拾
月
林上
月
林下
彰考館
新上

ゆうてうゆ　夢ゆ
ゆうてうゆ　あゆ
ゆうてうゆ　俊院
ゆうてうゆ　前大俊
ゆうてうゆ　実方朝
ゆうてうゆ　後三条
ゆうてうゆ　任国
ゆうてうゆ　あ
ゆうてうゆ　あ
ゆうてうゆ　大
ゆうてうゆ　自大
ゆうてうゆ　家人
月はゆ月はゆ月はゆ

彰考館 雑上
風 春中
同 雑上
新古 恋三
彰考館 恋四
同 尺
彰考館 冬
同 恋四
同 羇
彰考館 雑下
同 雑下
同 雑下

いつ松たてるやかりふせぬ　　松大納言 資友
ちる人もなきまきの葉の　　風吹ぬ
初瀬山ふるき月もなのくとすみなれ　　夢想 定家
うき人もさすいそのあま別ちの色をしらし　　藤原氏綱
ものよりまさりまさしき方をふゆるあり　　源和氏
草原やたのみの松をそなへ　　藤原為信
あまつそ雲もしらぬ雲そや月の光　　松大納言 実房
わりしあとをみそれ雲に松をうきし　　藤原為信
ちしあり岩の色よ有ふ　　中納言 為房
山寺に入おもへ先くの秋の夕べ　　入道一品親王 [illegible]
切ものを思ふ秋の夕べ　　三位 [illegible]
山のたにまく新をさ月ふ　　式部卿宮 [illegible]

彰考館 雑下
同 雑下
同 雑下
風 雑中
彰考館 恋
彰考館 尺
彰考館 冬
彰考館 雑上
風 雑中
彰考館 雑中
彰考館 恋

はたるまさ月ふ　　源義将 [illegible]
秋ふるもの月ふ　　はの中 経賢
ものしてそ時しの山のたに入のなよ　　永福門院
ものしてかく松の空　　後伏見院 [illegible]
ものしてかく　　藤原定雅
ものしてかく　　清少納言
ものしてかく　　[illegible]
ものしてかく　　[illegible]
ものしてかく　　[illegible]
ものしてかく　　[illegible]
ものしてかく　　[illegible]
ものしてかく　　[illegible]
ものしてかく　　[illegible]

彰続古 袁
風 雅下
新千 秋上
彰拾 雅
彰拾 雅下
風 玄々
彰続古 冬
彰千 補
月 玄一
風 冬
彰続古 雅上
彰拾 玄一

あふうすきうつる月にれいれいなるさ新
我さりにきよとこひ花衣方こてに
いるれいあるよりは月彰のうつるまに
はるとるうひもんをの高れ新しを
世中を捨ては身のりと思ひと常のさも
人よりも方こてけまと思ふ世はの
いつも世捨ようるこそやうこの春をてさ人
捨れ補の四季れいふ人を思へいとを紀
いうもんあうこう海に神の道てつ山や塩の
みを名は捨本の来れさむけきし剣とれく
うこさをもうこさいつふ梅花いるふせよと
山のそれ世の月乃ちるくるみ山ゆわ

かつけ 赤染衛門 寛仲
かつけれ 赤染衛門
かつけん 伊勢
かつけん 菅原孝標女
かつけま 三条院上人
かつけき物を 俊成 新古今 物語度 彰物
かつけ 物語度 三条院 新古今 彰物
かつけき思ひを 物語度 公敦
かつけ 院一條
かつけん 後鳥羽院
くはしけ 後人云

彰続古 尺
彰拾 玄三
彰続古 雅上
月 尺
月 雅上
風 補
彰千 補
彰拾 冬
新千 雅下
彰拾 雅去
風 雅中
彰千 雅上

山のそれ入りはるをたなとまみに山を
はれ来の山つうふあふうりさうなのを
補といふみうそれ物の花乃花はいの流れて
ちうそれのやれもんを松れ戸ふ山をうとく
玄日山本うそれ松ようみてうり補代の苦を
春の日と宗とうや照をうん むうつのうし
補うさやはうとうけくうる苦のつうれいれ
物人のうう雅れまの高れ
あつさうるものうさいうんあ入るうさ山の
れいうとうるれ玄とうの
今まううのやうれ中はうる梅ううう
彰うとうやのうし梅花の花 京の花

かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 源信武
かつける 後人云
かつけまし 菅原孝標女
かつけ 三條入道内大臣 太政大下
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今
かつけ 後鳥羽院 新古今

彰考館
写一
彰考館
写本
月
表下
風
夏
月
写一
月
朝と
彰考館
写一
月
夏
彰考館
夏
彰考館
朝
風
朝と
彰考館
写本

ちるやいふ雲うつ波のまやくわ立いうきの
いくせん世ふとせれと稀よそ〜わさ〜ま雅よ
かうつてゆく花ゆあ道と九のすくこの
山ゆく路〇こう道いたくこすゆ雲あるあ
うちなけよわれなくこ行れなるを望うて
山霧よりてやちりの雲てのそちぬ世い
ゆこいまこう道ゆさみよあよりゆ人神の
今ゆこいやきゆとゆちのゆうゆひくゆん
秋月月稀みれうさすとゆうう月の
ゆい知よゆ井の波いへゆとくこふゆ
やゆさみよりのゆふゆ月のうゆ世中と
わうさゆ稀ゆいそゆ山の井れ結ふくく

くれのさゆ
くれのさゆと
くれやいち
くれゆ月
くやとゆい
くくれゆれ
くゆうゆん
けいくゆれ
けいふゆ
けいゆ
けゆゆれて

宝泉院
法人
黄人信心
道元寺
嘉祐寺
宗門
院住号
慈徳院
四号
左京亮
直義
一条殿
義仁
弟人物
実教
上東門院
院庁号
法皇四製

彰考館
写本
新撰
写又
彰考館
朝去
彰考館
朝
彰考館
朝
彰考館
写本
彰千
尺
彰考館
尺
彰考館
別
同
写本
彰考館
朝上
新撰
写一
風
夏
同
秋

ゆゆ〜やれとたはのゆみゆゆ〜ゆ中よ
ゆゆいよ稀よゆ花ゆつき契りの
ゆゆいふみゆ月ゆとく秋とゆ
ゆのゆたゆゆくゆみよ波山ゆふゆゆ
ゆゆやの白ゆゆゆゆ月の
入月とゆふ白の面とゆいゆゆひてゆ
ゆゆすゆゆゆ波の雲のゆゆ
ゆひゆよ中ゆのゆゆゆのゆ
ゆゆぬゆの月ゆ光ゆゆて海ゆ
ゆゆわゆゆゆゆゆゆ白ゆ
ゆゆゆゆゆゆゆ月乃
ゆゆゆゆ月ゆとゆふ花をゆゆゆ立れ

班水郎
黄人物
為人孫
乃貫
あ人物
為世
黄信心
益慶
為東宮花
順徳院
四製
拾遺物
為世
古今四人作
宝徳院
二製
鎌倉
大作
為重定女

新拾遺

郭公まつよりすぐる山のたにいさよふ月の
入るかなたのそらもあはれなる
月

新拾遺

宵のまに出でまちかねて郭公なれ月の
みるこひしさ消やまさるらん

新拾遺

月見れば昔の秋の恋やそぐ
雲ふかき

新拾遺

さらでだに秋なれそめし夕いかに
雲ふかき

風雅

村雨の石に降りかかる白玉の
いつくあきはの

新拾遺

散ふといそぎ多かる山路やく人あつて乃
天の原をやうかぶ月むしの

新拾遺

蕭りを井心とすまいに秋の月
いくしぐれ

新拾遺

秋の空よあまひさ月を伴きみて秋世を過
せりつつ人の恋ひやはかるとも

みけ[illegible]も　前大納言為定
みけ[illegible]も　中納言為藤
みけ[illegible]も　前参議宗秀
みけ[illegible]　権僧正永縁
みけ[illegible]　前大納言為定
みけ[illegible]　権中納言雅孝
みけ[illegible]　深心院関白
みけ[illegible]　二条院讃岐
みけ[illegible]　前大納言為定
みけ[illegible]　拾遺愚草員外
みけ[illegible]　左京大夫顕朝
みけ[illegible]　権大納言実氏

新拾遺

秋下

新続古今

新拾遺

月

新拾遺

秋下

新続古今

新拾遺

月

新拾遺

秋下

新続古今

新拾遺

月

新後拾遺四　新続古　杜上　新拾　宍　彰子尺　新続古　雅中　新拾　立二　彰子　五二　風　雅中　新拾　立四　同　杜下　風　非流　同　雅上

みなかみのとこの板井のしみづにうつる人の
かげとそうたがふ　後拾遺　俊頼朝臣
すみなれてよそにうつりやくもの月
かげとうつるとしをへぬらん　校定定家卿
花ぞのゝ山ぢをこえてこの世にふるとしの齢
かげとうつるとしをへぬらん　伊勢大輔
いかにして君にあふみのあさぢふの
かげとおもへばこゝろ乱れん　後撰　伊勢
立ちのぼるみつぬまかくれ山つまとなる人の
かげとやいふらん　法下定家
つゆ中に浦ゝにすまぬ人のかげ
かげとふるまの月ぞ　校中納言
あかなくに月のうつれるまどのかげ
かげとたつて　校中納言
神のよかりけるあり昔の
かげとたつて　前大納言為家
きゝ山井のこゝろのかげ
かげとうつれる　惟宗光之朝臣
山風にうつるとりの声ハやまに出る
かげとうつる　西行法師
夜深をみるもそれ月にまたくもえの
かげとうつる　賀茂経久
なつ山の木ぐれにうつる入日の

彰子　雅下　風　雅上　新続古　立四　新拾　雅去　新続古　歌　新拾　雅下　風　杜上　彰子　杜下　同　立二　風　宍　同　雅中　新拾　去下

世の中はきたうきはかりとうとくもみの
袖をそしぼるかな　校信西　道秋
ちぎりをもかな　校入院内侍
ちぎりはよせもしらぬ人ぞ恨ぬ川わたりなれて
ちぎりをもかな　前参議
山のもとうらぶくまの月
ちぎりをもかな　従一位宣子
猿ぬぎをうちとりてまゝ
ちぎりをもかな　前参議資有
草の葉に沾ぬ袖をうちとりて
ちぎりをもかな　校大納言
杜をそもとの月をとりて
ちぎりをもかな　参議仲
杜の下に猿ぬぎ
ちぎりをもかな　民部卿為
源川神のこゝろみ花にそ中れる月も
ちぎりをもかな　法下長年
山ちをとふ所なのそれ浦ゝ
ちぎりをもかな　従三位盛親
ちぎりをもかな　前右馬頭
ちぎりをもかな　法皇山家
昔ゝ文もとゝれる新の上の服の
ちぎりをもかな　法皇山家

手をつくれさくれのいとしくのこけき水と　けれうつ里　寂蓮元年百首太政大臣
夏ゆまをいやしと見しまてらの月の　けれのもき　行平仰て公豊
石ゐの瀧つ山川やさせこうれの月の　けれくさうろ　雅俊朝臣
風ちらいるまれまよりの時て田面の月れ　けれくすれ　為家卿
面新い山のうちふれ立くなれ月れ　けれかけれ　後光明
ふとへて世いふれのすくるれうこ山の　けれさうり　宗尭教人
れの月山のえ出くたり海のみをの浦た　けれさやけき　永陽門院
風をさふ行の山れの夕つ山いうり侍され　けれまりき　愛知院
れ蓮の海ちれれ衣うり月れ　けれみそそ　印製
れの月をもとをくにくれの月の　けれすり　後宮歌合
山のれ雲うれ者いさよ月のくれ　けれ侍き　愛知院
夕立の時ゆれ法のゆ乃くたいさうの月の　けれ涼き　信之意

新続古笑　新拾上　新続古冬　新千秋下　風　五三　新千神　新拾秋上　新続古秋上　風　雅中　新拾雅上

雲乃の月りうゆるれ乃ゆ雲れ　大納言経信
宿るれれの海ゆ雲海りれ雲れ　をみりせ　津寺回助
雲の風ゆ雲れ雲れ山れの雲も　をみりれ　八条入道内大臣
星うふれゆ雲れ井ふ雲れれ月れ　をのくれ　貸之院内製
れ乃しゆ井れ雲れ月れ蛍れ　をのうる　皇太后宮大夫俊成女
うれ月れ乃のうりいうれれ雲れ　をのうる　法眼源兼
れれ雲れれれ雲れれ雲れ月れ　をの上れ　後小松院四製
れ雲れ雲れ雲れ雲れ雲れ月れ　を雲れ　後伏見院四号
雲れ雲れ雲れ雲れ雲れ月れ　をやう　大納言師賢
雲れ雲れ雲れ雲れ雲れ月れ　をやうん　侍従乃親
風れうれれれれれれれれ月れ　をやうん　平行氏
うれれれれれれれれれれ月れ　をやうん　金春大改大下
れの月れれれれれれれれれれ

新拾春下　円雅去　新拾雅上　円雅上　風　夏　新拾尺　新続古表　風　冬　新続古弁祇　新拾秋上　新拾弁　新千秋上

彰考館
雜
行ゆくすえの行末をかねてまもるせいたる命を
同
賀
むかしのやうにまひくだの花をもせの松
平遠藤
同
雜下
やまのうちさのこゑ松にうぐひすをとはぬもしるし
かなしこれと
彰考館
意一
松しのゆきもけぬ消のはるかぜにうぐひすなくなり
英勉
新後拾
意口
我年いたづらに松をとしをへにけりあはれ
かなしこのこと
清寧回量
新後拾
意口
なにはづの梅とさくやこのはるの
かなしこのこと
英俊
賢後
新後拾
意口
梅をとへてもあらのむつまじきかな
かなしこのこと
弐郡
郡有
新後拾
意口
雜
林
つねの世はゆきさへあはれまんのちふ
かなしこのこと
後拾
遺
同
雜
梅をたにさくこゑの春ふかみ雪もふ
かなしこのこと
賀茂
俊久
彰考館
意一
我をもとはぬ世にうぐひすのなきこゑ
かなしこのこと
西園寺
彰考館
意一
つまもこうやとのさかりの花をうつす水日
かなしこのこと
後拾
遺
彰考館
意一
そのうちと思へば我もみなさかりてあるこ
かなしこのこと
英太政
同
雜
花のしたにふるうつるうつるうつるうつ
永福門院
武
恒
親
同
意中
月をすれば庭のまもりをすてて行の夢
をもうつる
貸院
四
同
意又
いとふもかなしかりつる思ふのさん
をもつ命を
彰考館
意四
いそくあるはなかりつるうつるうつる
中
文
文
彰考館
意三
うつるうつるみ月をもかなしかりつる
百
院
彰考館
意千
夏月毎のやみをうつるうつるのつる
順
徳
院
四
家
雜下
ゆみてさすたてあるの板井のこれ
桂
中
納
言
行
同
意一
花とそ月をうつるの海さへあるれば神
藤原
氏
同
尺
うつるすのうつるうつるうつるうつる昔
源人
雜下
松のうつるのはるのはるのうつる彰考
入
道
太
政
大
臣
同
雜下
月をうつる神のうつるうつるの月みてうつる
摂
津
国
入
道
前
右
大
臣
風
雜
いくとりもうつるすんぢのいうつる月乃
冨家入道前
冨右大臣
彰考館

新古文
うつりゆく人のつきせぬなげきをば
伊勢
もてなやみぬる
七月十五夜の月いとあかりうちさんし
橘の仲平
ことつくりかな
新撰宗三
なきかなと我ぬしもとやそのよもの
新撰和
風雅一
天の戸ぬるまもなくて別ちをとこ
今二京殿
つくらつくふ
新撰宗三
風雅
ひとつの玉ぬきつる方ぬきて
冨士の高嶺
つくるなりけり
新古文
四つのよみのうりわふ月をとて
懸硯歌院
つくりつくしぬ
新撰宗三
うつりのつきよりくるくるつくる秋つれなさを
四の製
つくりもあるき
新撰宗三
秋なよみに昔の池乃たいまらのうつる
あるかの
清人家
新古文
恋ひかなしやさくと郭公いまは秋あるをも
進青殿
つくりてやすん
新撰
鶴の子ぬきを立をむつ毛衣ぬるを世ぬ八千世を
弁乳母
つくりてれさん
新撰
最後ぬるひとすあひ来神のつくる
清人家
つくりてしく
月
藤
都ぬふ海の上ふしの衣野ぬ山の雪を
左京基世女

新撰
たつをぬふあさのさ衣うら縫て秋はぬるを
四宣信鏡
つくりあんん
新撰宗三
海のあまぬ焼ぬ衣うりぬまやまをなる
今二京殿
つくるん
新撰宗三
衣たつ川ありせいあうぬ山よひとりの
本宮信殿
つくりぬ
新撰
ひつくりの沖ぬ舟ぬて川あうつひとき
後院殿
つくりぬの
新撰
紅ぬうぬ海ぬ人をき月ぬ月ぬ
坂上殿
つくりぬの
新撰
月
枕上
枕を彩ぬ月ぬ人をぬ月ぬ月ぬ
四の製
つくりぬの
新撰
月
枕上
月
枕上
金澤をやたぬ月ぬ月ぬ
清上
つくりぬの
新撰
月
枕上
月
枕上
ひのこ宮井の秋ぬ月ぬ
伊勢
つくりぬの
新撰
月
枕上
月
枕上
ぬ秋ぬ月ぬ月ぬ
後二条院
つくりぬの
新撰
月
枕上
月
枕上
ぬ月ぬ月ぬ
中務卿宮
つくりぬの
新撰
月
枕上
月
枕上
今ぬ月ぬ月ぬ人ぬ
黄門卿
つくりぬ
新撰
月
枕上
月
枕上
神ぬ月ぬ月ぬ人ぬ
黄門卿
つくりぬ
新撰
月
枕上

彰義 雜
わすれもさまらしかす宮内のあの下ゐの
かさりもれあまを　藤原兼経
彰拾 哀傷
ふれわをく宿をれい梅の花やうをとの
かさりもれらる　弾人宮
風 雜上
きさはらと分い七年の去りて花さとりや
永福門院内侍
彰拾 恋三
わをるかて今てしいいくもりをり別を
かさりとゐて　拾遺門院内侍
彰義 恋下
つるくと花を見てをてつるの人をの
かさりとゐい　躬恒
風 恋四
人をれを我のとらまわれいこのこてそ
かさりとゐて　院御方
彰義 恋一
ゆまを学事の寄れそれあをてきて法しき
かさりをそ汝　後小松院御製
風 恋三
手をしたまをしやさ井の時るこのさ月をれ
かさりゐれ　太宰権帥為経
彰義 雜
あれををしてのの松よ井をれてをれを酒の
かさりゐを　権大納言公宗卿
彰義 立夏
むさうふ金をのをて松の道いをそれ立の
かさりゐれ　権中納言俊忠
彰義 恋四
琴のをあれの松ちをそれうしてや
かさりゐん　廷三位俊後
日 恋三
なのをそしこれよむすくゆりやれ俊乃
かさりゐん　左金吾大将冬通

月 恋三
俊をさのをいいくたのむ〳〵きこれわ俊乃
かさりゐん　贈従二位為子
月 雜上
をねをりを井むいこの松や妹よ口を
かさりゐん　山井
新拾 春表
立のりり賀人の烟やをさ人のをれて
かさりゐん　僧正隆縁
月 冬
井ちをを本堂の者をるを井せ俊をの義
かさりゐま　後住吉院御製
彰拾 雜春
いをおもわをををれ俊をるまを里人の
かさりゐを　藤原永切
風 恋二
をををたのをを俊の哲ををを
かさりゐを　前大納言経房
彰千 恋
をををふやををを俊をを
かさりゐを　ちを人恋
彰義 立三
いををりあひをん俊ををを我むを
かさりゐん　為冬卿
彰拾 立三
堂のををを井ひのをむをいをを
かさりゐを　洞院摂政左大臣
彰拾 雜上
神をを人をやあをををを
かさりゐを　信実朝臣
彰拾 賀
君ち代の松よをををを井をを
かさりゐま　三條内大臣
新千 春
秋を世よををんをのをみを井を
かさりゐを　入道二品親王法乗

同 新中
彰長 新上
新拾 恋一
同 衰
新後古 恋三
彰拾 弁
風 弁抵
彰拾 弁
彰 弁
彰後古 弁抵
風 賀
彰後古 弁抵

むすぶてのしたにもつみの浦よりそ　かさあつめける　建暦二院
人なとの数とのやとれる海の入江のうつ　かさあつめける　源義時朝臣
いとせめくるる中のむつさい物　かさもてこし　花園院内裏
なきてはれ他乃波小せきうてゝ云れつるゝ　かさもつもる　後伏見院内裏
りまの数りれとなるみの縄すひくまてゝ　かさいうくゝ　法皇経賢
君うれを彩る心のまゝといつりすると　かさいうくん　従三位帯昌
みるを心れのうら人の数るれさるゝ　かさいうくん　参議雅冬朝臣
数浦やたいたるとゝとゝ人ゝとるゝ孫　かさいうくん　皇太后宮大夫俊成
すうゝいゝ実ゝて物ふすうりとうすて　かさにいのん　前参議朝村
ゝ浦ふゝいゝ数りを言れ　かさふいのん　権大納言為道
るゝうゝ文ちうゝたりてゝわ　かさうくん　従二位成家
代ゝけてゝくゝて浦むゝ位の江れゝ　かさにつくく　津守国道

同 弁抵
ゝるまてゝいゝて言ゝつゝ数ゝとゝ　かさゝの海ゝん　六条大納言 為家卿
ゝるゝ数ゝくゝいゝゝ数ゝゝゝて浦むゝ　弁よまゝん　法皇静賢
風 新上
ゝゝめゝらゝゝ方ゝゝゝゝ梅花井むゝを　弁ゝまゝせて　中将
彰拾 弁
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ愚ゝ歌ゝ　弁ゝまゝせて　前参議雅朝卿
彰後古 弁抵
なの山小我みるゝれ石清水の数ゝ　弁ゝまゝせて　左大臣
彰後古 弁抵
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　弁よ海せて　紀行頼
月 弁抵
乃ゝあゝ山れゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　大江義重
新千 弁
ゝゝをゝくゝかゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　弁ゝらゝん　従三位氏久
彰拾 弁
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　弁ゝけゝみ　津守国量
新子 弁
みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　弁ゝゝゝん　普光園院内大臣
同 弁
さゝゝゝ代ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　弁ゝゝゝん　大納言成実
彰拾 弁
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　弁ゝゝゝん　従二位為人卿

彰考館本 弁紙
風雅下
彰考館本
月義
彰考館本
彰考館本
彰考館本
彰考館本
風雅下
彰考館本
彰考館本
彰考館本
風雅下
彰考館本
彰考館本
彰考館本
彰考館本
彰考館本
月

彰考館本

清水き月をて拾えはとりとそ
とりあ方はるこのはいのとり
ゆるれと
面せをとるはこのあとくあ
りろ人しりあ海と沖く寄日
行あくて世へわん紅葉はの
伊勢や海風ろくと海苔の
れまる日の浦のとかる世と
日の海ふもいろくきみとの
吹ろ恋のまへ代帝のあを
わさをこうみを世川の月井
ゆと風のこせくあをとの
りりとふゆろはせくふと

神やろん　夢想の方定
神やろん　三位益世
神まつふ　寄良信
神まつる　板家度
神ひろ　後醍醐入谷
神ひろる　後醍醐入谷
神とわき　桂大信邸
神とろん　後醍醐入谷
神ときろん　小弁
りとと　参る補訳
ひろみる　冨家太夫右
ひろあく　夢想の方定

彰考館本

のふしあ恋の社乃恋ひ
思ひて武井ろふ逢と恋
花の紀あるよりのとれる
つ井まて世にろ神ひ
ひろとタをあろれこ
り人の心とすいあろ代同
ひよりかろ契りの恋れ
為代宿のきいとまて
もむろにうき世とうい
ひろたりの嬉ひとみ海と
ろあを月をゆをいとも
あろく人あろと海ふ家の

ひろろ　益世師
ひろろれ　桂少信邸　彩頭
ひろろん　夢とく
ひろろん　常元師
ひろろん　瑞青聖
ひろろん　為家卿
ひろろん　太上天皇
ひろろん　桂中納言　為重
ひろろん　桂大信邸　隆縁
ひろろん　儀同三司資
ひろろん　源能政卿
ひとろ世　夢想の方定

彰考館本
彰考館本
彰考館本

風 五三 新拾 賀

かすみくもり春のやよひのあけぼのゝ
霞の中に春の色をそめなせる
ものの姿の月ぞ新しき

風 名

ほのぼのとあけぬる空の春の色
ぬれぬ袖にもかをる梅の花

新 夏

ほのぼのとあけぬる空の春の色
ぬれぬ袖にもかをる梅の花

新拾 夏

大和のくにはゆきのうちにあるなれば
春のはつかぜ

彰 秋

今しかなのこゝろやるもしるべかな
春をしるべき風の音

彰 五二

春をしるべき風の音
春をしるべきこゝろやるもしるべかな

同 神祇

むすびつるいとのみだれをとけばこそ
春のはつかぜ

風 夏

春のはつかぜ
むすびつるいとのみだれをとけばこそ

彰 五四 雅中

うき世をよそにのがれてやすらむ
春のはつかぜ

風 雜上

立ちかへりむすびのこすをとけばこそ
うき世をよそにのがれてやすらむ

月 夏

ちりつもる三笠の山のゆくすゑを
立ちかへりむすびのこすをとけばこそ

かすの川風 後光明院 夢四百年 清廉潔白

かすの川風 夢幻無常 清廉潔白

かすの河風 貴院 四製

かすの川風 進子内親王

かすの川波 夢幻泡沫

かすの川波 板倉入道 前内大臣

かすの川波 皇太后宮大夫 後成

かすの川波 崇光院 入道 前内大臣 太政大

かすの川波 三宮 春宮

かすのゆくすゑ 皇太后宮大夫 後成

かすのゆくすゑ 後一條入道 前内大臣 太政大

月 神祇

月をこめ三笠の山のうすきぎり
ぬれぬ袖にもかをる梅の花

彰 秋 五三

月をこめ三笠の山のうすきぎり
ぬれぬ袖にもかをる梅の花

風 雜中

ちりつもる三笠の山のゆくすゑを
ぬれぬ袖にもかをる梅の花

彰 千 春下

世を人をわきてさかんの色
ぬれぬ袖にもかをる梅の花

新拾 春下

けいかうのふるをわかれのみち
世を人をわきてさかんの色

月 雜上

あきみちのこゝろのうちにあるなれば
けいかうのふるをわかれのみち

彰 夏 雜上

さくひかれたるのつゆのあけぼの
あきみちのこゝろのうちにあるなれば

月 五四

あまの川ながれたるたなばたの
さくひかれたるのつゆのあけぼの

月 雜

夕なぎのなみのしらゆふかけて
あまの川ながれたるたなばたの

風 雜下

しらくたいそのうらん我宿の梅
夕なぎのなみのしらゆふかけて

彰 秋 雜 五下

しらくたいそのうらん我宿の梅
しらつゆのこの一枝ばかりぬれぬ

彰 夏

しらつゆのこの一枝ばかりぬれぬ
第二句 春のはつかぜ

月 神祇

かすの川波 後光明院 夢幻泡沫

風 雜中

かすの川波 崇光院 作製

風 雜下

かすの川波 花園院 作製

風 雜上

かすの川波 吉田院 出家法名 柿本人丸

風 雜

かすの川波 花園院 安大納言 為兼

風 雜下

かすの川波 後光明院 内製

風 雜

かすの川波 花園院 為兼元真

風 雜下

かすの川波 和泉式部

風 夏

かすの川波 昭訓門院 睿

新千 雜上 風 夏

夕月よみのうつ宮ゐ清しそて野のあやた
風をてさてん 後人家和
風てうつ夏

彰拾 去上 日 夏

ゆきてうつ家ゐたちいかのうつ野乃撫
なう神の者ゆの野う夕立のうすゆ
風てけき
右を中納言 基重
拾遺院 乃製

彰続古 雜中 日 夏

夕立のうつ野ゆ
風てうつ
前大納言 為道
三條入道 左大臣

彰拾 雜上 日 夏

夕立の雨よ降てしよりさ重た
風てくる
前大納言 忠良

彰続古 雜上 風 夏

夕暮ゆ
風てうつ
右中納言 雅孝

月 夏

夕立のゆ
風てうつ
前左兵衛督 教定

彰拾 雜上 日 夏

吹とうつ撫の月い乳清くさ
風て清き
前大納言 公基

月 夏

山りうゆ本のトめうつ山車のさ
風て清き
後大納言 公藤

日 夏

りゆゆとゆうつ市いうこうて吹ゆうきね
風て清き
従二位為子

彰拾 夏

一まに来ゆこのさ成ゆ人てうつ夕立をうる
風て清き
伏見院 乃製

日 夏

雲うつ夕風空ふけうふのをゆ清ふ
風て清き
金二位親重 芙蓉

彰拾 夏

みうき河ゆきこしひの井そうゆ清を枝
風て清き
前大納言 資名

彰続古 夏

夏乃日もうつ代の蓮葉に夕のこゆ
風て清き
右大臣 隆源

月 雜上

立ゆ枝をよんみそきすうつ清り
風て清き
従二位 光仲

月 夏

このゆ花橘よ清ふよ代のゆうつ
風のうつを
桜井四 雅世

風 夏 春下

去清ふのてうこしゆ夕風てうこのこ
風の音ふ
英信公 道法

新千 冬

りうくうゆ来ゆうつ立めん枝こまれ
風の音れ
紀参議 師

日 雜二

いもうこひうしむうつ月ゆ秋そうきう清
風の音れ
右兵衛督 信

彰拾 冬

新古今 雜乃ゆ秋乃ゆ月ゆ清ゆ枝のまゆ
風の音れ
青侍所 たかト

彰拾 雜上

みうまにつ四の面い言そうつ清ゆ
風の音ふ
宣旨院 たかト

日 雜上

うつつ萩のトゆ清ゆ枝をうつ
風の音る
右中将 成定

彰続古

夕立のゆ月ゆ夜いうう秋くし市清き
風の音る
たかト

月 霧
同 弗誠
風 冬
彰考館 五六
月 冬
月 雅上
一 ものとは出雲の山の落葉
月 雅上
梅花 ものとに吹くそのゆゆ
風 雅上
山の色に時雨の山けふ霧かな
彰考館 五六
ものとは出雲の杜の木ども
彰千 雅上
うつりけり花とわかるるとそ
彰桂 杜下
さらくそ出の中にたすする
彰千 雅下
取もすそ山田の原を

月 長下
彰考館 五六
梅えの色に久しきうひそ井の花
月 五一
あるとの人のりかけ鶴のくやと井のうち
月 雅
来れとの花のうの花けさふるうの
彰千 雅
君とも雨ふるうるうるうるうるうの
彰桂 杜上
七夕とはうて棚天の川流るうるうるうる
風 杜上
杜さむき夕日に雲にもろの雲の雲
彰桂 雅上
うの雲のうるうるうるうるうるうの
彰考館 五六
みの月のうの月の雲のうの月のうの
月 冬
神の月雲出るれば雲のうの
風 杜中
るつまの雲にもこの雲の雲
彰桂 五三
つりのつまにつくるむ月にこの雲の

風の色 風の色る 風のまし 風の吹らん 風の音けさ 風の音けさ 風のうらん 風の音けさ 風のさ 風やうらん 風の音けさ 風やうらん 風やうらん

法隆寺 金堂院 五重塔 薬師 長谷寺 本尊 高野山 大師 法隆寺 本尊 唐招提寺 薬師 高野山 大師 法隆寺 行幸

風さうらん 風ものけさ 風ものうらん 風もぬらん 風もふらん 風もふらん 風をふらん 風のうけさ 風のうけさ 風のうらん 風のうけさ 風のうけさ 風のうらん

法隆寺 金堂院 五重塔 花園院 川製 法隆寺 金堂院 五重塔 中将 中納言 帝 進藤 中納言 唐招提寺 薬師 高野山 大師 唐招提寺 薬師 高野山 大師 法隆寺 行幸

彰拾賀
風吹ふれとうらく池のなみ
散ぬるを
彰続古賀
春日山松さいたるかたくらせの
彰後拾雅上
雪ふるとうぬ河のもりれとりつゝ花の
彰千雅
光なき谷にも山ぬしきこゝ春の
彰拾尺
散ぬあはいなき月のうれたのきくいんの
彰続古冬
ゆの浦のなとうしよなみのるひきうれ
彰千哀
ひとしく世ふまてしてかくしみ人とたん
彰続古雅中
世をいとふ月にあはいてそ秋尾つふる
彰拾五二
人とはぬひの月をとしてのうらにてわる
彰続賀
松の葉に露やつゝみてをきもちの
彰千芸
ふもせもうきうれ物とつゝのよれ松つゝの
風雅上
絡えてを花ふかすゝ郭公なきとも

散ぬるを　嵯峨院贈左大臣
散れは花　中納言資綱
散るのこゝろ　太上天皇
散るもれん　信尊法師
散るもれと　為道朝臣
散るもれは　左京大夫為内大臣
散るもれる　平宣時朝臣
散とあはき　従親房卿
散をうらし　伊勢大輔
散をうふん　加賀宮内大臣
散をうれは　平重時朝臣
散をうふれや　後伏見院御製

同名
彰拾
弥
彰拾尺
風雅中
彰拾尺
風雅中
彰千
枝上
同
彰拾五三
同
彰続古五二
彰拾雅下

弥ふきの松は雪ふりつもりてをれ
弥まつそのはりくよ立ちわくみよ高き
我くて山の端ちくなりまに月の
さ秋風吹ふ月をみてをきの
はの花ひらる花のはのまふ
ちるをのうをのみりふまてはの里
いくもせちよ物ふ松とて月をるこの
あつ月いくよせんとうしあはわのの
いくをまて消わせてうき人の松伏乃
いくしまおもうきふ月のうして人をとる
恋をふる池のみをれ松まつ我松の
恋わて海をとてをふるの道をとて

散ぬるを　院宮雅
散れて原　花園院御製
散るのき　慶政上人
散れるれは　後伏見院
散るひふ　為兼卿
散をきしの　院一條
散つするん　源孟武郎
散つするん　後二条院御製
散つするん　廉仁王
散つするん　赤染衛門
散つるん　為兼卿
散るのあ方と　義忠朝臣

ゆあ〜いかのうくもまをてをあつむるの
さのこまにうゆそいまれさうんのの
はうちうつのをりをさす梅のこえ折枝
はさゆく吾宮の宮ゆあさ緑つそもやそ
かうしのまやむしの秋の月秋方ひつま
をゆまいゆあゆあ思まてとうち
是川の山ゆ石清水あ宮ゆきのゆをこと
おまさうを清やまを乃金のさゆう流
立ちうまい二月の宮さそあまさう春
次ひうを風の一をうひわさう花
いうつをうを人それいあをそう川みうをの
はさゆ梅の花をそいつうりう

風と雅と　惟宗光吉 作
新拾遺　恒明親王
彰考館本　後鳥羽院 御製
新千載　藤原為家
彰子　源詮信
彰考館本　後嵯峨院 御製
新千載　藤原為氏
彰子　後西園寺公宣 藤原為氏
月　藤原為兼
彰考館本　後伏見院
風　後醍醐天皇
月　後醍醐天皇
彰考館本　後醍醐天皇
月　後醍醐天皇

はるかすみ　中務卿宮
はるかすみ　権中納言資教
はるかすみ　太政大臣
はるかすみ　権中納言雅世
はるかすみ　後円融院
はるかすみ　後円融院摂政
はるかすみ　東宮
はるかすみ　太政大臣
はるかすみ　定太后宮
はるかすみ　恵慶法師
はるかすみ　後光厳院
はるかすみ　内大臣
はるかすみ　人丸

彰考館本　拾遺
月　雅と
彰考館本　夜
彰考館本　雅と
彰子　立三
月　雅と
彰子　立三
彰考館本　雅と
彰子　立三
風　雅と
彰子　立三
彰考館本　雅と
風　雅と
月　雅と

はるかすみ　中務卿宮
はるかすみ　権中納言資教
はるかすみ　太政大臣
はるかすみ　権中納言雅世
はるかすみ　後円融院
はるかすみ　後円融院摂政
はるかすみ　東宮
はるかすみ　太政大臣
はるかすみ　定太后宮
はるかすみ　恵慶法師
はるかすみ　後光厳院
はるかすみ　内大臣
はるかすみ　人丸

彰子
素上

いとゝやと去りにしかたの恋ふるまゝに
庭なるひく　後拾遺雑
太政大臣

彰信
素上

みるとせい年の春日に君ぞくれぬる
前中納言
匡房

彰信
素上

小の原の宮ゐ春日をまつ姫や宮
校大納言
家綱

彰子
素下

去の秋をひとりぬる月の
庭うめなん　入道三条殿
けさる

風
素上

まゝゝゝゝけてみるせいさいのい
庭なりけり　後拾遺
四方

彰拾
素上

山のたにれぬ君けを物くし去立ふい
庭なりけり　九大臣

彰信
素上

一一いもまゝとあれぬる分の松ゝり
庭なりけり　参議相模院
前実日四大下

彰拾
素上

秋乱ゝけるやいつこみゝしけくらの山
庭こめて　贈皇院
四宝

彰拾
素一

あられていつゝよゝん雲ぞ
ゝそつゝ　中宮大夫
公宗母

六百六十七首